
創立九十周年記念誌

愛知県鍍金工業組合

目 次

記念誌発刊にあたって	組合通史・・・・・・・・・・ 16～45
愛知県鍍金工業組合理事長	
神谷 篤・・・・・・・・・・ 1	めっき業界の未来を想う
祝辞	愛知県鍍金工業組合顧問
中部経済産業局長	石井 博・・・・・・・・・・ 46～48
田中 耕太郎・・・・・・・・ 2	めっき業界の十年後を想う
創立90周年を祝して	愛知県鍍金工業組合顧問
愛知県知事	菅沼 延之・・・・・・・・ 49
大村 秀章・・・・・・・・ 3	創立90周年記念誌に寄せて
創立90周年によせて	愛知県鍍金工業組合顧問
名古屋市長	伊藤 豪・・・・・・・・ 50
河村 たかし・・・・・・・・ 4	
創立90周年を祝して	(資料編)
全国鍍金工業組合連合会会長	愛知県技能検定合格者状況(めっき)
苅宿 充久・・・・・・・・ 5	・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
組合創立90周年に寄せて	組合役員の変遷・・・・・・・・ 52～53
名古屋市工業研究所長	委員会の変遷・・・・・・・・ 54～55
青木 猛・・・・・・・・ 6	組合員名簿・・・・・・・・ 56～60
	賛助会員・・・・・・・・ 61～63
歴代代表者・・・・・・・・ 7～8	年表・・・・・・・・ 64～73
現役員・・・・・・・・ 9～12	
顧問・相談役・・・・・・・・ 12～13	
歴代役員・・・・・・・・ 14～15	

記念誌発刊にあたって

愛知県鍍金工業組合

理事長 神谷 篤



このたび愛知県鍍金工業組合は90周年を迎えることができました。昭和6年創立から90年という長きに渡り継続できたことは先輩方含め組合員のみなさまの常に前向きに将来を見据え活動してきた結果と思います。またご支援いただいた賛助会員様はじめ関係各位には心より感謝申し上げます。

平時であれば盛大に記念式典を執りおこなうところですが新型コロナウイルスによる流行性感冒の全世界的感染により記念事業はもとより準備すらできない状況でした。国全体が大きく影響を受け、私ども鍍金業界も疲弊しています。このように御参集いただけない状況では記念事業は控え、きたる10年後の100周年に向けての準備としての一つの区切りという位置づけにしたいと思います。

思い起こせば80周年記念は東北大震災の直後でやはり開催を危ぶまれ、私も実行委員長として議論と検討を重ねたことを思い出します。元号も令和になり、この10年はまさに変化の時でした。消費税が8%になり、そして10%になり経済に悪影響を及ぼすとの予測をみごとに裏切り日経平均株価は¥10,000ほどだった10年前から¥30,000に近づくまでになっています。

情報化が一機に進んだ時代でもありました。通信インフラの充実に伴い大容量データのやり取りが可能になり小さなスマートフォンが情報収集発信の中心となりました。ネットワークで人々が繋がり、個人レベルでの商品売買が大きなマーケットになっています。2021年にはデジタル庁が異例の速さで設置され、いよいよ行政機関のデジタル化を進めようとしています。

ようやく全世界的に地球環境や平和を守ろうという機運が高まり、大量生産、大量消費、富の集中を見直す動きがはじまりました。環境問題に関連してこの地の基幹産業である自動車産業も化石燃料エンジンからEVへ大きく舵を切りました。温暖化対策も始まったばかりで何が正解なのかわかりませんが新たな技術に挑戦することは未来に向けて大切なことだと思います。

今後も会員企業の発展、さらには我が国製造業の重要な黒子として、まずは100周年に向かって歩をすすめてまいります。今後とも愛知県鍍金工業組合事業にご支援ご協力をお願い致します。

祝 辞

中部経済産業局
局長 田中 耕太郎



愛知県鍍金工業組合が創立90周年を迎えられ、ここに記念誌が発行されますことを心からお慶び申し上げます。

貴組合におかれましては、昭和6年5月に名古屋鍍金業組合として発足させて以来、産学官連携によるめっき技術の開発・高度化等に積極的に尽力されてこられました。また、若手後継者の育成や技能検定施設の常設化に取り組まれるとともに、WEBマッチングシステムの構築によるIT化の促進にも取り組まれております。

90年に亘る長い歴史の中では、戦時下の組合統制や戦後の公害問題に端を発する有害物質排出の適正管理、直近では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う部材調達難など、経済・社会情勢の変化により様々な課題に直面されてきたことと存じます。

しかしながら、神谷理事長始め歴代役員の指導力と組合員の皆様の強固な結束の下、常に時代の変化を機敏に捉え、その時々課題に果敢に挑戦されてこられたことが中部地域のものづくり産業全体の発展に繋がっており、貴組合の多大なる貢献に深く敬意を表する次第です。

さて、我が国主要産業である自動車産業では、CASE・MaaS等の進展により「110年に一度」と言われる大変革期を迎えております。サプライヤーに求められる役割も大きく変わろうとしており、例えば電動化に伴う部品点数の減少はめっき需要の減少にもつながり得ます。また、カーボンニュートラルへの対応など、より一層の環境対応も求められてまいります。

経済産業省としては、新型コロナウイルス感染症の影響、急激な人口の減少等の短期及び中長期の経済社会情勢の変化に適切に対応して、「新たな日常」に向けた取組を先取りし、長期視点に立った企業の変革を後押ししてまいります。具体的には、「グリーン社会」への転換によるカーボンニュートラル実現、デジタル技術を活用したビジネスモデルの変革(DX)への対応、「新たな日常」に向けた事業再構築等を促進してまいります。

中部経済産業局としても、主要産業である自動車関連産業を中心に、事業環境の変化や潜在的市場ニーズなど自社を取り巻く状況把握の機会の提供、それらも踏まえた課題の認識と自社の強みを活かした提案型のものづくり・経営スタイルへの変革に向けた伴走型支援を行ってまいります。

めっき技術は幅広い産業を支える基盤技術であり、その活用範囲は広範です。貴組合のリーダーシップの下、めっき業界の皆様がこれまで培われてきた技術力を活かした新たな取り組みに積極的に挑戦され、益々の発展を遂げられることを期待しております。

最後になりましたが、貴組合の90年の輝かしい歴史と御業績を後世に引き継ぎ、100周年に向け、そしてその先の未来へとますます御繁栄されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

創立90周年を祝して

愛知県知事
大村 秀章



愛知県鍍金工業組合が創立90周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴組合におかれましては、昭和6年の創立から90年の長きにわたって、会員企業の技術力向上や労働環境整備、さらには人材育成などを目的に様々な事業を実施され、鍍金業界への貢献を通じ、今日の愛知経済の発展に御尽力してこられました。

この90年という歴史は真に重く、ここに創立90周年という大きな節目を迎えられましたことは、歴代の理事長様を始めとする役職員の皆様並びに会員の皆様の御尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

鍍金産業及び愛知経済の発展に向け、今後も引き続きお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

さて、本県は、製造品出荷額等が43年連続で全国1位を誇る、モノづくり産業の一大集積地であります。その中で鍍金技術は、日用品雑貨、家電、自動車・二輪車等の輸送機器をはじめ、産業機械、コンピューターや通信機器等の電子部品、航空機関連など幅広い産業に活用され、あらゆる産業の基盤として大きな役割を果たしております。

こうした各産業からの拡大・多様化するニーズに、鍍金産業の皆様方が迅速に応え、技術力や品質の向上に取り組んでこられた結果が、今日の愛知経済の発展につながっているものと考えております。

今日までの皆様方の御努力や御研鑽に深く敬意を表するとともに、皆様にはまさに「モノづくり愛知」の一翼を担っていただいておりますことに、改めて御礼を申し上げます。

一方で、昨今の社会経済の動向としましては、新型コロナウイルス感染症が世界の経済活動に大きな影響を与える中、デジタル技術の活用や環境対策など、製造業界に求められることがより複雑かつ高度なものとなってきております。

また、愛知県の主要産業である自動車産業が、電動化や自動運転など100年に一度の大変革期を迎えているのを始め、生活様式や産業構造がグローバルに大きく変わりつつあります。

こうした中、あらゆる産業の基盤となる鍍金技術の重要性もますます増しております。

このような歴史的な転換期を活かし、愛知そして我が国が成長・発展し続けるためには、研究開発に磨きをかけ、イノベーションを次々と生み出していくことが不可欠です。今後も、愛知が日本の成長エンジンとして、我が国のモノづくりを力強くリードしていき、そうした変化に的確かつ迅速に対応していかなければなりません。現在の様々な困難をのりこえ、本県のプレゼンスを更に高めていくため、今後も経営基盤の安定や体質強化、雇用の安定のための諸施策を積極的に実施し、皆様とともに確かな歩みを進めていきたいと考えております。また、オール愛知で一丸となり、新型コロナウイルス感染症を克服し、安心な日常生活と活力ある経済活動を取り戻していくことができるよう、引続き御支援、御協力をお願い申し上げます。

また、コロナ克服後を見据え、2022年秋のオープンに向け整備を進めている「ジブリパーク」、2024年に開設予定のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」、2025年にオープン予定の「愛知県新体育館」、さらには2026年に開催されるアジア最大のスポーツの祭典「第20回アジア競技大会」など、国内外から多くの人を呼び込む仕掛けづくりも進めております。こうした取組を着実に進め、一つでも多くの明るい話題を提供し、日本を、そして世界を、ここ愛知から盛り上げてまいります。貴組合の皆様におかれましても、活力あふれる地域社会の実現のため、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

愛知県鍍金工業組合におかれましては、90周年を機に、さらに団結を深められ、100周年へとますます御繁栄されますことを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

組合創立90周年によせて

名古屋市長
河村 たかし



このたび、愛知県鍍金工業組合が創立90周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。貴組合は、昭和6年の発足以来、電気めっき業を営む中小企業者の改善発達や人材の育成・確保、環境への対策など様々な事業を通じ、名古屋市はじめ当地域の産業発展に多大なる貢献をされてきました。これもひとえに、歴代の役員の方々をはじめ組合

員の皆様のご尽力の賜物と、感謝申し上げます。

現在、わが国を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により経済活動が長期にわたり停滞しており、製造業においては、半導体不足、円安や原油価格の上昇によるコストアップ等、皆様を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあると認識しています。

経済の先行きが不透明で、閉塞感が漂うなか、こういう時こそナゴヤが日本一早い景気回復を遂げ、日本全体をけん引していかなければなりません。本市においては、このような未曾有の事態に対し、市内金融機関と連携し低金利かつ経営状況に応じて金融機関が柔軟に対応する融資制度である「ナゴヤ信長徳政プロジェクト」により、厳しい経営環境にある事業者の方々に応援してきました。

さらには、未だ回復への道半ばにあります市内経済をさらに盛り立てるため、電子商品券と紙のプレミアム商品券を発行し、ナゴヤの消費を大いに盛り上げることで、コロナ禍で傷ついているナゴヤの経済の回復に寄与するものと強く確信しています。

コロナ禍によりこれまで当たり前のようであった日常や社会経済は一変しました。しかし、戦後の焼け野原から弛まぬ努力で世界でも有数の都市へと復活したように、私たちは再び力強い一歩を踏み出していかなければなりません。

私たちは、戦後、高度経済成長期を経て、オイルショック、バブル崩壊、リーマンショックや東日本大震災など、これまでに何度も危機的な状況を経験してきました。このような状況を乗り越え発展し、わが国の経済をけん引してきたのは、やはり当地域を中心とした「ものづくり産業」です。

現在においても、当地域の基幹産業であり、めっきの技術が多数使用されている自動車産業において、100年に一度と言われる変革期を迎えており、シェアリングエコノミーの進展や電動化を背景とする構成部品の転換等により将来が危ぶまれ、強い危機感を抱いています。

このような状況においても、貴組合が掲げる「継続と変革」のとおり、従来からの高い品質に加え、イノベーションによる技術革新等により新たな価値を生み出し、付加価値の高い製品を世界に供給していくことにより、乗り越えていけるものと信じています。

めっき技術はあらゆる工業製品に施され、家庭用品などの日用品分野から航空機、自動車、携帯電話、宇宙関連のハイテク分野に至るまで、あらゆる産業の基盤としてわが国経済の発展に寄与しています。日本全ての産業の基盤技術としてもものづくりを支える、貴組合の皆様の役割は大変大きく、貴組合の今後のご活躍を、心より期待いたします。

創立90周年の節目を迎えられました貴組合の今後ますますのご発展並びに組合員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

組合創立90周年を祝して

全国鍍金工業組合連合会

会長 荻宿 充久



この度愛知県鍍金工業組合が創立90周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。また平素より全鍍連事業に対して多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。歴史を紐解きますと昭和6年5月に「名古屋鍍金工業組合」として創立され、今日の「愛知県鍍金工業組合」にまで発展を遂げられたことに深く敬意を表する次第です。

貴組合は90年という長きにわたり好不況の荒波があつたにも関わらず、多彩な事業活動を続け幾多の難局を乗り越えられました。そこには歴代の理事長様、役員様をはじめ組合員皆様が結束して組合の業務や運営に精励努力されてきた賜物と確信しております。

オイルショック、リーマンショック、東日本大震災やコロナショックなど大きな国難もありましたが中部経済圏は状況に応じて迅速に持ち直し、経済的な逆境にも組合員の皆様が一丸となって困難を跳ね除け「中部のものづくりの底力」を示され、90年という輝かしい歴史を歩んでこられました。自動車産業の中枢を担う愛知県に立地しており毎年の工業統計では愛知県が電気めっき業の生産額のトップを走りつづけており「絶好調の愛知!」としてまさにめっき業界の中心的役割を担っていただいております。

これまでもめっき業界を取り巻く環境は大きな変化を遂げ、決して順風満帆であつたわけではありません。光沢めっき技術の普及などによる生産体制の転換、また高度成長時代下での公害問題や近年は地球的規模による環境問題など様々な苦難の連続であつたといえるでしょう。こうした中でもめっき技術は我が国の産業を支えてきました。産業構造がどのように変化してもその重要性にいささかの揺らぎもありません。業界に携わる人々の強い信念がこうした苦境を乗り越えさせてきたのだと思います。

貴組合は名古屋工業研究所との共同事業によるめっき人材の育成をはじめ「産・官・学」の協力体制で様々なめっき技術の開発に取り組むなど業界発展に大きな成果を上げてこられました。また、技能検定の講習会や環境規制に関する勉強会なども熱心に開催されているほか毎月出される組合報では委員会活動や懇親会等をきめ細かく報告されており全国の組合の中でもとりわけ組合員企業間の繋がりを大切にされている模範的な組合組織であると認識しております。貴組合の活躍が全鍍連に集う各都道府県の目標となりその発展向上に繋がります。90周年を迎えられた事は先人の努力の結集とも言えますが、それは通過点に過ぎません。役職員をはじめ組合関係者の皆様が気持ちを新たにされ、強固な団結の下更なる発展を遂げられるものと信じております。

昨年9月30日に新型コロナウイルス感染に対する緊急事態宣言が解除されて以来新たな感染者は低い数値のまま推移しております。しかしながら南アフリカ発とされる「オミクロン株」が世界に広がりを見せ、我が国でも第6波の感染拡大が懸念されます。

また人手不足や原材料不足、材料費の高騰など、めっき業界を取り巻く環境はまだまだ不透明な状況ではありますが、貴組合がこれまで培ってきた組織力を活かし、めっき業界の活性化に指導的役割を果たされると共に、100周年という大きな節目に向かい更に飛躍していただきたいと心から願っております。最後になりますが、今後の愛知県鍍金工業組合並びに組合員の皆様の益々の更なるご発展と関係者皆様のご健勝を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

組合創立90周年に寄せて

名古屋市工業研究所
所長 青木 猛



愛知県鍍金工業組合が隆盛のうちに創立90周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。創立時から今日に至るまで組合の皆様が積み重ねられてきたご努力に深く敬意を表しますとともに、これまで名古屋市工業研究所が貴組合から賜りました多大なるご支援、ご協力に厚くお礼申し上げます。

当所は、名古屋市議会における「工業技術の指導研究機関設立」の議決に基づき、貴組合創立から6年後の昭和12年7月に名古屋市工業指導所として業務を開始しました。以来、84年間、当所が公設試験研究機関として名古屋地域の企業・業界支援に相応の実績を上げることができたのは、貴組合のご理解とご協力があったからこそと感謝の念に堪えません。また、昨年は当所に貴事務所を移転されて当所との物理的な距離も大いに近づけることができました。

貴組合は人材育成・指導教育・調査研究など、めっき業の振興とめっき技術の進化・成長のために諸活動に取り組まれてきました。近年では、当所と協働して共同研究や業界対応専門研修、戦略的基盤技術高度化支援事業などを積極的に進めていただいております。例えば、次世代防錆めっきや無排水めっきシステムなどの新技術共同開発は、貴組合と組合員企業との貴重な財産となっています。同時に、当地域の産業振興に寄与するだけでなく当所の技術力向上に資する重要な成果でもあります。節目の年にあたり、引き続き貴組合との協働が発展してゆくことを期待してやみません。

さて、めっきの歴史を調べてみますと諸説ありますが、紀元前1500年頃のメソポタミア北部で金属腐食防止のために用いられた表面処理がめっきの始まりという説が有力のようです。以来、約3500年にわたりめっき技術はその時代における最新の化学・材料・電気技術を取り入れながら進化し続け、今日の熟練技術と先進技術を組み合わせた高度基盤技術となっています。金属器やジュエリーなどへの防食・装飾機能、モーターや電子部品などへの耐傷・耐久性や導電機能、宇宙実験室用器具や燃料電池セパレーターなどへの耐熱・絶縁機能、医療機器や衛生用品などへの抗菌・抗ウィルス機能と、めっきは国内のあらゆる産業分野で競争力を下支えする必要不可欠な表面処理技術になっています。

一方で、開発された時点では最新であった技術は、クローズドなノウハウを除き、実用化された時点で誰もが知り得る技術となります。めっき技術を進化させるためには、新たなニーズや試行錯誤的な取り組みだけでなく、AIはじめバイオなど多様な分野の最新研究成果と知恵を取り入れていかなければ新たな進化は成し得ないのではないかと考えます。そういう意味では、まだ気づいていない進化の芽や種がすでにどこかにあるかもしれません。

製造業の主要な基盤技術であるめっきは、当所の重要な技術分野の1つであり、貴組合との協力・協働はとりわけ大きな位置を占めております。身近にある物すべての表面に処理を広げられる可能性を持つ「めっき技術」に注目し、当所は新たな進化につなげられるよう研究を続けていく所存です。

名古屋市は、今後の10年先を見通して新たなビジョンに基づく産業振興に取り組んでいます。その中で、当所は今まで以上に「より密接に」「より強力に」「より身近に」、地域中小企業が日々直面する技術課題の解決、新技術・製品の開発・実用化、ものづくり人材育成と技術情報の発信に努めてまいります。これらの使命を遂行するためにも、リアル・オンラインにかかわらず企業・業界の皆様とより密に対話し協力することが欠かせません。引き続き当所の活動へご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

改めまして、愛知県鍍金工業組合が創立90周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げますとともに、貴組合の益々のご発展を祈念致します。

歴代代表者



山内 繁 氏

名古屋鍍金工業組合組合長
(昭和6年5月～昭和12年9月)
名古屋鍍金工業組合理事長
(昭和12年10月～昭和14年5月)

名古屋鍍金工業組合理事長
(昭和14年6月～昭和17年3月)
愛知県鍍金工業組合理事長
(昭和17年4月～昭和19年7月)



長谷川 石 松 氏

中部鍍金工業統制組合理事長
(平成19年8月～昭和20年)



清水 広太郎 氏

中部鍍金工業統制組合理事長
(昭和22年3月～昭和22年4月)



田中 藤一 氏

中部鍍金工業協同組合初代理事長
(昭和22年4月～昭和25年9月)



森 善九郎 氏

中部鍍金工業協同組合2代理事長
(昭和25年10月～昭和27年4月)



伊藤 安太郎 氏

中部鍍金工業協同組合3代理事長
(昭和27年5月～昭和35年10月)



中山 秀生 氏

中部鍍金工業協同組合4代理事長
(昭和35年11月～昭和42年4月)



中島 茂清 氏

愛知県鍍金工業組合初代理事長
(昭和42年5月～昭和62年4月)



渡邊 辰巳 氏

愛知県鍍金工業組合2代理事長
(昭和62年5月～平成11年4月)



石井 博 氏

愛知県鍍金工業組合3代理事長
(平成11年5月～平成13年4月)



笹野 不二夫 氏

愛知県鍍金工業組合4代理事長
(平成13年5月～平成18年4月)



伊藤 豪 氏

愛知県鍍金工業組合5代理事長
(平成18年5月～平成29年4月)

現 役 員

(令和3年5月～令和5年5月)



理事長
神谷 篤



副理事長
鈴木 泰造



副理事長
清水 謙一



副理事長
水野 光隆



副理事長
笹野 恭史



専務理事
笠間 敦嗣



顧問理事
伊藤 豪



常任理事
水野 善仁



常任理事
竹内 弘一



常任理事
二村 義博



常任理事
竹中 敬治



常任理事
若子 光憲



常任理事
山内 教義



常任理事
前川 恵一



常任理事
水野 民樹



常任理事
高木 幹晴



常任理事
伊藤 亮



理 事
宮松 寿光



理 事
豊田 章寛



理 事
佐竹 準也



理 事
岩崎 学



理 事
笠間 亮次



理 事
眞野 祥典



理 事
小池 和正



理 事
井上 朋彦



監 事
竹内 克弘



監 事
松田 勝彦

顧問



石井 博



竹内 克弘



笠間 則文



菅沼 延之



伊藤 豪

相談役



杉浦 和正



水野 親則



落合 慎一

歴代役員

(平成25年5月～令和3年5月)



鈴木 邦男
(平成25～28年度)



佐藤 寿訓
(平成25～30年度)



加藤 千博
(平成25～26年度)



中島 隆夫
(平成25～28年度)



松崎 心悟
(平成25～30年度)



杉浦 候二
(平成25～令和2年度)



田中 勝美
(平成25～28年度)



杉浦 和正
(平成25～28年度)



水野 親則
(平成25～28年度)



金森 健
(平成25・26年度)



高橋 康之
(平成25・26年度)



伊藤 志成
(平成25・26年度)



近藤 健次
(平成27・28年度)



高木 香苗
(平成27・28年度)



岩永 章吾
(平成27・28年度)



沓名 正文
(平成29・30年度)



浅野 功嗣
(令和元年・2年度)



角屋 俊幸
(令和元年・2年度)



前田 昌文
(令和元年・2年度)

平成から令和の新時代へ

— 創立90周年まで10年のあゆみ —

平成24年

平成24年の経済状況は、前半は、震災復興施策やエコカー補助金などを背景に国内需要が増加し成長を支えてきた。一方では欧州政府債務危機などを背景とした金融資本市場の変動や海外経済の下振れ、円高の進行やそれに伴う国内空洞化の加速、電力供給の制約からくるコスト増などにより、非常に厳しい状況でありながらも、総じて上向きに推移していた。後半はエコカー補助金の廃止とともに、中国の尖閣問題に端を発した日本製品不買運動の影響で経済状況は悪化したが、昨年末の政権交代により円安・株高に推移し少し明るさに期待できる年であった。

こうした中、めっき業界は、主に自動車関連の生産動向に影響され、エコカー補助金の廃止以降は受注が先細り、生産額の落ち込みの中、受注価格の低下、原材料費のアップ等、自動車業界の安定受注も過去の話となり大変厳しい経済状況であった。

このような大変厳しい経営環境の中、水質汚濁防止法が改正され、有害物質を使用・貯蔵する施設に対して、めっき設備の本体・床面・配管・排水溝等の材質・使用基準が法制化され、更に施設の定期点検、記録の保存が義務化されたことにより、地下水汚染未然防止に万全を期した。

(平成24年重点事項)

(1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を積極的に図ります。

(2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。

- ・ 組合支部活動の強化と連携。
- ・ 組合運営費の削減。
- ・ 情報ネットワークの活用。
- ・ IT時代に即応した広報活動。

(3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。

(4)環境保全の更なる推進に努めます。

- ・ 土壤汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
- ・ 水生生物保全のための排水基準に係る対応。
- ・ ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排出規制）の自主管理に係る啓蒙。
- ・ 改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
- ・ グリーン調達への対応。
- ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。

(5)技術革新による経営の刷新を図ります。

- ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。
- ・ 生産技術の向上及び品質の高度化。
- ・ 技術者の育成（めっき技術専門研修）。
- ・ 新技術情報の収集と提供。
- ・ 名古屋市とのづくり団体共同研究への参画。

(6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。

(7)名古屋市科学館新館常設展示（めっきコーナー）管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。

(8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月11日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら153名の出席により、平成24年新年賀詞交歓会を開催した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「平成24年壬辰(みずのえたつ)年がスタートして早10日が過ぎたが、経済状況についてはさっぱり読めない。アメリカ経済の低迷、欧州の金融危機による超円高は、輸出産業にとって減益、空洞化が危惧されるところである。中部地方の産業界の動きは自動車産業の動きがそのまま現れるが、トヨタの社長の今年の経済予想は、雲のち晴と言っており、トヨタが晴れれば中部圏は快晴になると思う。しかしながら世の中何が起こるのかさっぱり分からない。ハプニングが起こらないのを願うばかりである。

さて愛知県鍍金工業組合は、昨年創立80周年の節目の年で、先人の努力により創られた輝かしい歴史を受け継ぎ、その業績の重さを確認して90、100周年に向けて新たな一歩を踏み出した。

日本の産業にとって、めっき技術は必要不可欠であり、めっき業界の活力が、日本経済を活性化させ、新たな繁栄を築くことが出来ると確信している。今年もめっき技術をさらに高度化する取組み、人材育成、情報の共有化などを進め、組合員の絆を深め、明るい未来を描きながら創っていききたい。」

引き続き来賓各氏からの祝辞があり、賀詞交歓会となった。

改正水質汚濁防止法 (東海・北陸ブロック)説明会

4月27日、名古屋市工業研究所・管理棟1階ホールにおいて、愛知県鍍金工業組合主催により「改正水質汚濁防止法(東海・北陸ブロック)説明会」を開催した。名古屋においては環境省主催で、法改正説明会が3回開催されたが、参加できなかった組合員も多いため、とかく分かりにくい法改正内容、特にめっき業界における重要点について、愛知組合員、東海・北陸ブロック(岐阜・三重・富山・石川・福井)組合員等を対象に説明会を行った。

水質汚濁防止法の一部を 改正する法律の施行

6月、「水質汚濁防止法の一部を改正する法律」が施行された。

これは、地下汚染の効果的な未然防止を図るため、施設の設置者に対して、地下浸透防止のための構造や設備および使用の方法に関する基準の遵守、定期点検および結果の記録・保存を義務付ける規定などが新たに設けられ、排水を下水道に放流している企業には、都道府県への届出が必要となった。

平成24年度通常総会

5月18日、名古屋国際ホテルにおいて平成24年度通常総会を開催した。組合員、賛助会員、来賓ら130名出席のもと、平成23年度の事業報告と同収支決算報告、平成24年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決した。総会に先立ち、伊藤理事長はつぎのとおり挨拶した。

「この1年を振り返ると、東日本大震災明けの3、4、5月はサプライチェーンが寸断され操業

停止が続き、大変深刻な状況であった。その後も、電力事情により、節電対策として土日出勤、木金休みで対応、その後良くなったと思ったら、タイの洪水、空前的円高など、私どもにとって厳しい年であった。しかし、この愛知を中心とした中部圏の強固な製造基盤のおかげで、我々めっき業界は急速に回復することが出来た。

こうした中、本組合では、教育事業、技術開発事業、環境保全事業などと共に、3年間継続して取り組んでいる人材確保推進事業により次代を担う人財の確保や育成を図ってきた。また昨年度は創立80周年を迎える節目の年に当たり、記念講演会、記念式典、記念誌発刊など記念事業を行った。今年度も、私どもめっき業界が更に発展できるよう、かつ個々の企業が経営合理化できるよう努めてまいる所存である。」

総会では理事長より、前期組合役員への感謝状や、技能検定の成績優秀者に賞状が贈呈された。議案審議の後、来賓各氏の祝辞があつて懇親会となった。

菅沼延之氏、黄綬褒章受章



平成24年春の国家褒章で、菅沼延之副理事長が、長年にわたるめっき業界の振興発展に貢献するなど幾多の功績により黄綬褒章を受章を

受章し、6月6日ザ・プリンス パークタワー東京で伝達式が行われた。

氏は昭和56年11月、実父が創業した名古屋メッキ工業株式会社に入社し、常務取締役就任するや、新設した全自動亜鉛めっきラインの立ち上げに従事しながら、自己の職業能力

開発と技量研鑽に努めた。平成3年2月、実父より代表取締役を継承後、熱に強いめっき製品を生産する「全自動ニッケルめっきライン」を導入し、自動車関連部品のめっきを本格的に手がけ、めっき用途の新たな可能性を通じて様々な貢献を果たされた。また研究開発型企業への転身を目指して平成10年に自社内に研究所を設立、めっきの可能性を追求する新技術開発に取り組み、中でもパラ系アラミド繊維上に各種めっきをつける技術を確立、複数の特許出願を成し遂げた。こうした技術開発により、繊維をメタル化する（繊維めっき）事業において、名古屋メッキ工業株式会社は、世界トップレベルのノウハウを持ち、作り出された新素材は各産業界から大きな期待を集めることとなった。

業界団体においても、平成元年より当組合の理事に就任、平成11年5月に専務理事、平成18年5月より副理事長に就任し、めっき業界の発展、社会認識向上のための活動に尽力され、こうした事績により、平成18年11月に優秀技能者として愛知県知事表彰、平成21年11月には卓越した技能者として厚生労働大臣表彰を受賞。

氏の黄綬褒章受章を祝う会が、7月1日熱田神宮会館にて開催され、組合関係者始め会社関係、関係機関からの来賓ら約150名が出席した。

東海・北陸ブロック会議

10月12日、名古屋国際ホテルにおいて、全鍍連の東海・北陸ブロック会議が開催された。当組合が開催幹事県であり、伊藤理事長始め18名が参加した。

会議では、最初に全鍍連から「平成24年度めっき要覧」と「平成24年度の活動方針」に基づき説明があり、続いては岐阜県、三重県、富

山県、石川県、福井県、愛知県の各組合から概況報告があった。

●平成24年表彰

- ・菅沼延之氏 黄綬褒章(平成24年春の褒章)
- ・妹尾和彦氏 厚生労働大臣表彰(技能検
定功労)
- ・杉浦候二氏 全国鍍金工業組合連合会会
長表彰(組合役員功労)
- ・笹野恭史氏 全国鍍金工業組合連合会会
長表彰(組合役員功労)
- ・伊藤益夫氏 全国鍍金工業組合連合会会
長表彰(組合役員功労)
- ・水野親則氏 全国鍍金工業組合連合会会
長表彰(組合役員功労)

平成25年

平成25年における我が国の経済状況は、アベノミクスと称される大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間需要を喚起する成長戦略の「三本の矢」によって、デフレからの脱却を最重要とした経済政策により、株価上昇や過度な円高が是正され、大企業を中心に景気に明るさが見え始めた一年であった。

こうした中、めっき業界においては、輸入原材料価格の上昇、製造拠点の海外進出、部品調達コストの引き下げ要請による受注価格の減少など依然厳しい一年であった。しかし自動車産業を取り巻く環境が、消費税増税前の駆け込み需要、円安効果でトヨタにおいては、リーマンショック以前の最高収益を越える業績を上げるなど、国内生産台数の減少を少しでも食い止められたことがせめてもの救いであった。

このような厳しい経営環境の中、当組合では、水質汚濁防止法への対応、土壤汚染対策法の諸問題への対応、人材育成の重要性から

新たに、めっき初心者技術研修、労働安全衛生サポート事業、メンタルヘルス対策事業を実施し、大いに成果をあげた。

(平成25年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・組合支部活動の強化と連携。
 - ・組合運営費の節減。
 - ・情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・土壤汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排出規制）の自主管理に係る啓蒙。
 - ・改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
 - ・グリーン調達への対応。
 - ・化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
 - ・新技術の開発と導入及び需要拡大。
 - ・生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・技術者の育成（めっき技術専門研修）。
 - ・新技術情報の収集と提供。
 - ・名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。
- (6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。
- (7)名古屋市科学館新館常設展示（めっきコーナー）管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。
- (8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月9日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら156名の出席により、新年賀詞交歓会を開催した。笠間則文副理事長が開会の挨拶を述べた後、伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「平成25年、癸巳（みずのとみ）年がスタートして早8日が過ぎたが、今年の経済状況については、よく判らないのが現実である。中部地方の景況は、自動車産業（特にトヨタ）の動きがそのまま現れ、昨年8月までは順調に推移していたが、昨年9月からは急速に冷え込んだ。こうした中、組合は、改正水質汚濁防止法への対応や技能検定試験の実施、東海北陸ブロック会議などを行った。めっきは、あらゆる産業を支える必要不可欠な基盤技術であり、めっき業界の活力が日本経済を活性化させ、新たな繁栄を築くことが出来ると確信している。

今年は、めっき技術をさらに高度化する取組み、人材育成、情報の共有化に加え、全鍍連が昨年末に発汗した『めっき業ビジョン2012』をもとに、次世代経営者が自ら考え、自ら実践する指針、事業計画を策定又は見直しの取組みを進め、厳しい経済環境を乗り切っていく。

巳の年は金回りがいいと言われているので、商売繁盛の年となることを願っている」

来賓各氏の祝辞の後、賀詞交歓会となった。

平成25年度通常総会

5月17日、名古屋国際ホテルにおいて平成25年度通常総会を開催した。組合員、賛助会員、来賓ら128名出席のもと、平成24年度の事業報告と同収支決算報告、平成25年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決された。また任期満了に伴う役員の改

では、平成25・26年度の役員を選出し、理事長に伊藤豪氏を、副理事長に笠間則文、菅沼延之、神谷篤の3氏を、専務理事に鈴木邦男氏が再選された。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「再度留任ということで、理事長という大役を仰せつかり、重責に身の引き締まる思いである。思い起こせば7年前、笹野理事長よりバトンタッチを受け、その間、非鉄地金の高騰、リーマンショック、トヨタショック、大震災等、次から次へと起こり、普通は谷あれば山となるところが、谷あればまた谷ありで幸運には恵まれなかった。ところが新政権のアベノミクスによる円安・株高で、トヨタが絶好調である。全国中央会の鶴田会長から再生大臣に大手企業の賃上げのために、下請けを苦しめないよう、また円安による還元を働きかけていただいた。

当業界には課題が山積みだが、「めっき業ビジョン2012」をもとに、次世代の経営者等組合員が自ら考え、自ら実践する指針、事業計画を策定または見直しを進めて頂くとともに、当組合においては、先程決まった新三役、常任理事、理事の皆様の強力なバックアップのもとで、事業に取り組んでいく。」

議案審議に先立って感謝状の贈呈、技能検定の成績優秀者へ賞状と記念品が贈られた。議案審議の後、来賓祝辞があり、懇親会が行われた。

メンタルヘルス対策 取組支援事業

愛知県からの委託により、中小企業が取り組むメンタルヘルス対策を支援する仕組みを構築・実践するため、ガイドブック作成、研修会、専門家派遣を行った。

7月にメンタルヘルス対策委員会を立ち上げ、ガイドブック作成に係る専門家の人選を行

い、心理カウンセラーで(株)ハーモニークリエイション代表取締役の白石恵美子氏と、企業に出向き対応して頂く専門家として、保健師の小島洋子氏にそれぞれお願いした。ガイドブックの内容には、家族との距離が近い『小規模事務所』が多いことから、個人と会社だけではなく、「家族との連携」も含めて掲載するとともに、具体的な事例や相談窓口を多く載せ、さらに困ったときに読んでもらえるようにするため、丈夫な紙で仕上げたのが「職場のメンタルヘルスガイドブック」である。

9月2日と11月5日に組合員におけるメンタルヘルス対策のきっかけとする研修会を、白石恵美子氏を講師として開催し、両日で70社が参加した。

保健師の小島洋子氏には、これから取組みを開始しようと考えている会社や、取組み活動中の会社など8事業場を訪問していただき、それぞれの状況に合わせて資料の提示や具体的な対応の助言を行っていただいた。



共同研究の成果報告

平成24年度の共同研究の成果が名古屋市工業研究所から報告された。

今後、CFRP(炭酸繊維強化プラスチック)の需要が増すことが予測される中、現状、CFRPへのめっき処理技術は十分に確立されていない。そのためCFRP上に装飾めっきを行うためのめっき前処理技術の開発を行うための実験を行った。

報告によれば、クロム酸溶液を表面改質に用いた場合、熱処理を無電解ニッケル以降で行うことで、めっきが剥がれること無く、密着性が増した。またオゾン水処理を行うことで、CFRP表面が改質されるとともに親水性を示したが、めっきの密着性は乏しかった。

めっき初心者技術研修

当組合は、「ものづくり愛知」における後継者人材育成事業の一環として、名古屋市工業研究所の協力のもと「めっき初心者技術研修」を開催した。この研修は新入社員ならびにこれと同等な社員を対象にめっきの基礎的な知識の習得を目指すことを目的に、8月28日、9月4日、翌年3月19日の3日間行われた。

中小規模事業場 安全衛生サポート事業

10月1日、愛知県産業労働センターにおいて、中防災主催の「中小規模事業場安全衛生サポート事業」のセミナーが開催され、組合からは37名が出席した。中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター専門役山口好孝氏を講師として招き、過去の労働災害発生状況、また「自分のエラーパターンを知ろう」と、参加者全員でエラーパターン診断テストを

行い、その対策などの防止策を受講。「危険予知活動のめざすもの～ヒューマンエラー事故をなくそう～」のDVD視聴後、ヒューマンエラーの対応策の一つであるKYTの手法や説明を受けた。これは現場における危険をグループで話し合い危険のポイントや行動目標の決定、指差し呼称、唱和で確認するものである。最後にゼロ災スローガンである「指先にこころをこめて指差し呼称ヨシ!」を参加者全員で唱和した。

●平成25年表彰

- ・鈴木邦男氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・落合慎一氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・清水謙一氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・鈴木邦男氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・落合慎一氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・清水謙一氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・神谷 篤氏 愛知県知事感謝状(職業能力)
- ・落合慎一氏 愛知県知事感謝状(職業能力)
- ・清水謙一氏 愛知県知事感謝状(職業能力)
- ・神谷 篤氏 全国中小企業団体中央会会長表彰(創立65周年特別表彰)

平成26年

平成26年の経済状況は、アベノミクスによる追加金融緩和の実施、過去最大規模の予算編成、成長戦略の第二弾となる日本再興戦略改定版による競争力強化の土俵作りを目指す「日本産業再興プラン」、内需を生み出す「戦略的市場創造プラン」、外需を生み出す「国際展開戦略」による、稼ぐ力を取り戻す、担い手を生み出す、地域支援産業育成、中堅中小企業革新を押し進め、大企業中心の景気回復から、地域・中小企業の景気を回復させるローカルアベノミクスへ少しずつ移行してきた一年であった。

しかし、めっき業界においては、消費税増税、過度な円安によるさらなる輸入原材料費・燃料費等の高騰、電力料金の値上げなどもあり、厳しい状況は続いた。こうした厳しい経営環境の中、愛知県鍍金工業組合が取り組んだ大きなものとして、環境問題における一律排水基準超過事業所にかかる個別技術指導等の実施、施設の構造等に関する基準の達成、定期点検の実施など水質汚濁防止法への取組、さらには土壤汚染対策法の諸問題への対応に努力した。また人材育成の重要性から、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修を継続するとともに、電気めっき技能検定実技試験の実施を始め、新たに技能五輪・アビリンピックあいち大会の開催に伴い、電気めっきの町工場技能者コンクールを併催行事として当組合にて開催し、若手技能者の技術向上に大きな成果を上げた。

(平成26年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を積極的に図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・組合支部活動の強化と連携。
 - ・組合運営費の削減。
 - ・情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・土壤汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排出規制）の自主管理に係る啓蒙。
 - ・改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。

- ・ グリーン調達への対応。
 - ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
- ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。
 - ・ 生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・ 技術者の育成(めっき技術専門研修)。
 - ・ 新技術情報の収集と提供。
 - ・ 名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。
- (6)町工場技能者コンクールを実施します。
- (7)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。
- (8)名古屋市科学館新館常設展示(めっきコーナー)管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。
- (9)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月10日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら149名の出席により、平成26年新年賀詞交歓会を開催した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「平成26年、マスコミや経済三団体の話によると景気が良いと言われている。安倍首相も消費税の増税分3%を賃上げするよう要請されているが、私ども中小企業は4月からの消費税増税で仕事が減少、減速となるうえに、更に電力料金の値上げが相当な負担になると思っている。電気めっき業は電気の名前が付いているとおり、値上げは大変厳しい状態になる。円高となって大企業はコストダウンを要求し、円安となって電気代、原材料が上がって経営が耐えられないことから、中部電力には年末、愛知県、岐阜県、三重県の中小企業団体中央会三者連名で陳情した。また組合としても中電に要望してきた。

今後どうなるかわからないが、めっき技術は

日本の産業にとって必要不可欠であり、めっき業界の活力が日本経済を活性化させ、新たな繁栄を築くことが出来る大切な業界である。組合として、今年も従来にもましてめっき技術をさらに高度化する取組み、人材育成、情報の共有化等を進め、さらに組合員の絆を深め、明るい未来を目指していく。今年が午年であるので、すべてがうまくいくように、更なる飛躍の年となるよう願っている。」

その後、来賓各氏から祝辞が述べられ、賀詞交歓会となった。

メンタルヘルス対策シンポジウム

2月17日、愛知県主催によるメンタルヘルス対策シンポジウムが開催された。愛知県からの事例発表及び斉藤政彦氏(大同特殊鋼(株)統括産業医星崎診療所所長)より基調講演が行われ、氏は年々増加している「うつ病患者」を目の当たりにし、「早期の発見、対応」また、職場における対策として担当者による「傾聴」、その後相談する先の産業医や病院を確保しておく事の重要性を切に訴えられた。また、病ではないがあちこちに蔓延している「新型うつ病」やその他の心身障害についての特徴などを説明し、すべての症状における職場復帰のあり方などを講演された。

その後当組合の長谷川事務局長より、「鍍金組合で取り組んだメンタルヘルス対策」の事例発表が行われ、メンタルヘルスガイドブックの作成・配布や研修会、専門家派遣を行ったことで「メンタルヘルス対策の取組み」に対する士気が高まったことなどを発表した。次に伊藤卓氏(太陽電化工業株式会社常務取締役)より「社員と共に育つためのコミュニケーション」の事例発表が行われた。最後にパネルディスカッション「復職困難事例にどう取り組むか～企業が取るべき対応を考える～」が

行われ、メンタル不調者の休職中にどのように職場、家族、主治医等が関わると良いか、また支援者との連携・協力についてどのように対処すればよいかの道筋を見出していくことを目的に活発な意見が繰り広げられた。

平成26年度通常総会

5月15日、名古屋国際ホテルにおいて平成26年度通常総会を開催した。組合員、賛助会員、来賓ら138名出席のもと、平成25年度の事業報告と同収支決算報告、平成26年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「この1年を振り返ってみると、経済状況については、アベノミクスと称される大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間需要を喚起する成長戦略の『三本の矢』により、デフレからの脱却を最重要とする経済政策による株価上昇や円安で、大企業はリーマンショック前の利益が出て、景気が良くなっている。しかし私も中小企業においては、円安が逆の方向に働いて、じわじわと原材料費やエネルギー価格の上昇、親会社のコストダウン要請などがあり大変厳しい状況であった。本組合でも平成25年度当初の128組合員が年度末には125と減少し、大変厳しい状況を反映したと思う。こうした中、新たにめっき初心者技術研修、労働安全衛生サポート事業、メンタルヘルス対策事業を実施するなど、各委員会とも人材育成、技術の向上、環境保全に精力的に取り組んできた。平成26年度についても、世の中は消費税増税、電力料金値上げ、コストダウン要請等厳しさが続くが、我々は団結して乗り越えて行かなければならないと思っている。」

総会では理事長より、前期組合役員への感謝状、技能検定の成績優秀者に賞状が贈呈

された。議案審議の後、来賓各氏の祝辞があって懇親会となった。

町工場技能者コンクール

愛知で開催される技能五輪全国大会・全国障害者技能競技大会にあわせ、中小企業の若手従業員を対象に、若手技能者の交流と技能の向上を図り、産業界で活躍できる技能者の育成を目的として、7月5日、名古屋市工業研究所附属棟において、電気めっき技術のコンクールを開催した。参加者25名の平均年齢は27歳と、まさに若手技能者の参加となった。



(コンクールの模様)



(外観採点)



鍍金技術講演会 ～沖猛雄先生を偲ぶ～

8月19日、名古屋市工業研究所において、鍍金技術研究会主催、愛知県鍍金工業組合、名鍍会共催による鍍金技術講演会を開催した。3月に、鍍金技術研究会の前会長、愛知県鍍金工業組合顧問、名鍍会顧問であり、当地域のめっき業、めっき技術の発展に多大な貢献をされた名古屋大学名誉教授沖猛雄先生がご逝去された。物事の本質を見抜く鋭い観察眼、的確な判断、そして将来を見通す洞察力は、めっきに関わる人々にとっての羅針盤でもあった。先生を偲び、講演会では先生の偉大な貢献を今一度確認し、今までの取り組み及び今後のめっき技術について語り合った。

中国・広東省鍍金協会の表敬訪問



11月11日、中国・広東省鍍金協会から20名の方が、一般社団法人東海日中貿易センター主催の訪日活動の一環として、当組合を訪問された。

当組合は伊藤理事長、笠間・神谷両副理事長が出迎え、まずはじめに当組合の事業概要とめっき企業の海外進出の状況を説明し、中華人民共和国が海外進出の最大の相手国として、愛知県からも多数のめっき事業者が進出しており、一番緊密な国であると紹介、このような機会を大切にしたいと述べた。対して

広東省鍍金協会の趙国鵬会長は、協会の事業概要を説明した後、愛知組合の進出を大歓迎すると述べた。

その後「めっきの力」のDVDを鑑賞し、質疑応答に入り、予定時間を越えた有意義な意見交換が行われ終了した。

竹内克弘氏、旭日双光章受章



平成26年秋の叙勲で、竹内克弘顧問理事が永年にわたり鍍金業界の振興発展に貢献した幾多の功績により、旭日双光章を受章し、11月11日、

東京プリンスホテルで伝達式が行われた。

氏は昭和42年3月、父が創業し叔父が経営していた㈱刈谷鍍金工業所入社し、電気めっき加工業務に従事し研究に力を注ぐとともに、技術講習会等を開催するなど後進の育成指導に取り組んだ。昭和57年8月に代表取締役社長に就任、平成4年5月に㈱サーテックカリヤと改称し、会社を驚異的に成長させ、平成25年12月には取締役会長に就任した。

昭和47年5月、当組合の理事長に就任し、平成11年5月からは副理事長に、平成21年5月には顧問理事に就任され、41年に亘りめっき業界の発展に粉骨砕身尽力した。さらに、技能検定委員として技能検定業務に携わり、めっき技術者の輩出にも多大な貢献をした。特に副理事在任中は、広報・環境対策・近代化推進・国際の各委員会の担当副理事として、時代に要請された様々な問題解決に奔走した。

また昭和58年6月から上部団体である全鍍連の国際関係の委員として活躍し、平成11年5月からは全鍍連理事に就任、環境対策委員会副委員長や国際委員会副委員長を歴任し、

尽力した。

なお受章祝賀会は翌27年2月15日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて関係者約280名出席のもと盛大に行われた。

●平成26年表彰

- ・ 竹内克弘氏 旭日双光章(平成26年秋の叙勲)
- ・ 若子光憲氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・ 山内教義氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)

平成27年

平成27年の経済状況は、政府の各種の政策効果により、デフレ脱却や、円安による過去最高の企業収益等、経済の好循環が生まれた。その中、更に安倍政権の新たな三本の矢GDP600兆円達成等、一億総活躍時代の実現が打ち出され、中部地方の輸出型大企業は前年に引き続き軒並み高業績を上げ、愛知県の製造品出荷額等が43兆8千億円と昭和52年以来連続全国1位となるなどの輝かしい出来事があった。

しかしめっき業界は、円安が逆効果となり、原材料費等の高騰や電気料金の値上げ、人材不足によるコストアップ等で経営環境が悪化し、依然として厳しい状況が続いた。これら厳しい経営環境の中、組合の取り組んだものは、環境問題における亜鉛、ほう素、ふっ素、硝酸性窒素等の一律排水基準超過事業所にかかる指導等の実施、施設の構造等に関する基準の遵守、定期点検の実施など水質汚濁防止法への取組、さらには土壤汚染対策法の諸問題への対応に努力するとともに、町工場技能者コンクールを2年連続で実施し、若手の技能者の技術向上に大きな成果を上げた。また

引き続き名古屋市科学館に展示されているめっき製品等のPR、新規採用に係る業界説明に努め、業界のイメージアップに積極的に努めた。

(平成27年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・ 組合支部活動の強化と連携。
 - ・ 組合運営費の節減。
 - ・ 情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・ 土壤汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・ 水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排出規制）の自主管理に係る啓蒙。
 - ・ 改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
 - ・ グリーン調達への対応。
 - ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
 - ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。
 - ・ 生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・ 技術者の育成（めっき技術専門研修）。
 - ・ 新技術情報の収集と提供。
 - ・ 名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。
- (6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。
- (7)名古屋市科学館新館常設展示（めっきコーナー）管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。
- (8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月9日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら166名の出席により、平成27年新年賀詞交歓会を開催した。菅沼副理事による開会の挨拶の後、伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「昨年の経済状況は、アベノミクスの『三本の矢』によるデフレ脱却等により、大企業は好決算、労働環境の改善等がなされてきているが、中小企業においては、円安による原材料費、燃料費等の高騰、電力料金の値上げ、消費税増税による消費低迷などがあり、厳しい経営を強いられた。また社会の話題としては、異常気象、異常現象が次々に起こり、広島の上砂崩れ、御嶽山の噴火、長野での地震、11月にまでスーパー台風が発生し、各地に大きな人的・物的被害をもたらした。しかし、青色LEDの発明で赤崎氏、天野氏、中村氏の3氏がノーベル物理学賞に輝き、赤崎氏、天野氏は愛知の大学出身であり、当地域の研究開発、技術開発が世界的に評価されたものであり、ものづくり愛知の産業人として大いに勇気づけられた。将来を見据えたビッグなプロジェクトとしては、リニア中央新幹線の着工、三菱のMRJの初飛行予定、トヨタの究極のエコカーMIRAIの販売開始などがあり、愛知県の大村知事が年頭の挨拶で述べていた『今年は何日本一元気な愛知が日本を引っ張っていく』といった志をもって愛知が大きく羽ばたく年そのものである。

そうした中、当組合では160名を超える受検者による電気めっき技能検定試験の実施を始め、技能五輪・パラリンピック愛知大会の併催行事として、電気めっきの町工場技能者コンクールを開催し、若手技能者の技術向上に大きな成果があった。新しい年を迎え、政府による地方創生法案の具体的施策の早期

実施を期待し、業界一丸となって、明るい活力のあるめっき業界を目指していく。」

来賓祝辞の後、賀詞交歓会となった。

下請ガイドライン説明会

2月25日、名古屋市工業研究所管理棟にて、東海・北陸ブロックの組合員を対象に、下請ガイドライン説明会を開催した。これは、電気料金的大幅値上げ、原材料価格の上昇、消費税増税等業界を取り巻く経営環境が厳しい中、依然として受注元企業からのコストダウン要請等を受け入れざるを得ない組合員が多い中、有利な立場にある親事業者との取引の公正化を図るために、親事業者も下請事業者と連携して、下請中小企業振興法等の法律や下請適正取引等のガイドラインを守る必要があるものの、めっき業界内では、法律の内容と重要性についてあまり浸透、定着していないことから、経済産業省、中小企業庁のご厚意により、開催したものである。

排水処理講習会



3月10日、鍍金会館にて「ほう素、ふっ素、亜鉛等の排水処理講習会」を開催し、組合員等50名が参加した。これは、電気めっき業界において暫定排水基準が適用されているが、ほう素・ふっ素・亜硝酸性窒素等については、平成28年6月末まで15年に亘って延長されており

また亜鉛については、平成28年12月10日まで、10年に亘って延長されていることから、平成28年以降、今まで通りの延長要請は困難な状況であり、組合としてはさきに、一律基準を超過している事業所を対象として個別技術指導を実施したことから、その成果を伝えるとともに、改善対策事例等を示して、少しでも活かしてもらえるように開催した。

平成27年度通常総会

5月15日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて平成27年度通常総会を開催した。参加者は組合員、賛助会員、来賓等142名で、平成26年度の事業報告と同収支決算報告、平成27年度事業計画及び同収支予算案を審議し、満場一致で承認、可決した。また任期満了に伴う役員の改選では、伊藤豪理事長を再選、副理事長に神谷篤、笹野恭史、鈴木泰造の3氏を、専務理事に佐藤寿訓氏を選任した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「経済状況について一年を振り返ると、アベノミクスの追加金融緩和の実施、過去最大規模の予算編成などにより、デフレ脱却・円安・日経平均2万円を超す株高に伴い、大企業を中心に特にトヨタでは、営業利益2兆7500億円を超える空前の利益をあげた。それに伴い賃金も軒並み大幅上昇されているが、中小企業・私どもめっき業界においては、輸入原材料価格や電気料金の上昇、消費税増税による購買意欲の減少、製造拠点の海外進出など依然厳しい状況であり、賃上げもなかなか事業、環境保全事業に精力的に取り組み、特に人材育成の重要性から、めっき初心者技術研修、メンタルヘルス対策事業、160名を超える受検者による電気めっき技能検定の実施、更には県と職業能力開発協会主催の町工場技能者コンクールを開催した。これらの事業が遂

行できたのも、ひとえに皆様の支援によるものと深く感謝している。」

議案審議に先立って特別功労賞などの表彰、感謝状の贈呈、技能検定の成績優秀者へ賞状と記念品が贈られた。議案審議の後、来賓各氏の祝辞があつて懇親会となった。

佐藤寿訓氏、黄綬褒章受章



平成27年春の褒章で、佐藤寿訓専務理事が、長年にわたるめっき業界の振興発展に貢献するなど幾多の功績により黄綬褒章を受章した。

氏は昭和56年、実父が創業した佐藤工業所に入社し、以来一貫してめっき工に従事しながら、特級のめっき技能士の資格を取得するなど、常に技術の研鑽に努め、平成7年1月に有限会社三貴工業に改称し、代表取締役就任した。氏がバレルめっき加工とその量産化を実現させた直径0.5mmの球状部品(砂粒上)は、本来のめっき製品としての用途以外に特殊な形状や極薄部品のめっき加工の添加資材として用いられ、めっき製品本来の完成度を高める機能を果たしており、環境改善や維持管理コストの効率化にも寄与し、業界の技術革新に大いに貢献した。

また、組合の若手二世で構成される名鍍会の会長に平成7年に就任、平成14年には日本鍍金協会会長に就任し、次代を担う若手経営者の育成、技能指導に努め、会長退任後も全国のめっき業界の発展、地位向上に努めている。その豊富な経験と卓越した技術、技能を見込まれ、愛知県技能検定補佐員として技能検定の推進と円滑な事業運営に多大に寄与し、若手めっき工の育成にも尽力している。

氏の黄綬褒章受章を祝う会が、7月26日名古屋マリオットアソシアホテルにて、関係者130名出席のもと盛大に行われた。

組合報、600号

昭和40年7月に前身の中部鍍金工業組合から第1号が発刊されて以来、その時々 of 広報委員により50年間脈々と受け継がれてきた組合報が、この10月で第600号を達成した。462号(平成16年4月)から表紙に使用していたツインタワー(JRセントラルタワーズ)の写真を、500号(平成19年6月)に撮り直して使っていたが、タワー周辺の再開発により景色が変わってきたこともあり、600号を機に表紙の写真を変更することとなった。新しい表紙には、中部の顔であるセントレアが選ばれた。



町工場技能者コンクール表彰

11月20日、去る7月4日に実施された「町工場技能者コンクール」において競われた亜鉛めっき加工した試料が、コンクール実行委員会によって厳格に審査され、愛知県職業能力開発促進大会において、優勝者には愛知県知事より表彰状が、準優勝及び第3位には、職業能力開発協会会長より表彰状が手渡され、愛知県鍍金技術振興会からの記念品がそれ

ぞれに贈呈された。



●平成27年表彰

- ・佐藤寿訓氏 黄綬褒章(平成27年春の褒章)
- ・笹野恭史氏 愛知県中小企業団体中央会 会長表彰(組合功労)
- ・杉浦候二氏 愛知県中小企業団体中央会 会長表彰(組合功労)
- ・水野親則氏 愛知県中小企業団体中央会 会長表彰(組合功労)

平成28年

平成28年の経済状況は、政府の一億総活躍社会の実現や地方創世の本格展開、並びに中長期にわたる経済の好循環を押し進めるための、未来への投資を実現する対策等を進めてきた。中部地域の輸出型大型企業は、為替が円高に振れた為、多少利益は減少したものの引き続き好業績を上げるとともに、リニア中央新幹線の本格的な工事の開始や、MRJの早朝引渡しに係る本格的飛行実験の実施など、中部圏製造業にとっては元気な出来事も多々あった。

平成28年度の経済状況は、政府の一億総活躍社会の実現や地方創世の本格展開、並びに中長期にわたる経済の好循環を押し進めるための、未来への投資を実現する対策等を進めてきた。中部地域の輸出型大型企業は、為替が円高に振れた為、多少利益は減少したものの引き続き好業績を上げるとともに、リニ

ア中央新幹線の本格的な工事の開始や、MRJの早朝引渡しに係る本格的飛行実験の実施など、中部圏製造業にとっては元気な出来事も多々あった。

その中でめっき業界は、政府によるものづくり補助金等各種支援施策、中小企業等経営強化法の制定、施行等の対応にもかかわらず、依然として好景気には程遠く厳しい状況が続いた。

これら厳しい経営環境の中、組合が取り組んだものとしては、「ものづくりは人づくり」人材育成の重要性から、150名を超える受検者による電気めっき技能検定実技試験の実施、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修を継続実施し、技能者の技能向上、職場環境の改善に大きな成果をあげた。名古屋市工業研究所と共同して「シンクロトン光を利用しためっきの高度構造解析」研究を3年間にわたって取り組み、めっき皮膜および後処理皮膜の構造解析、めっきプロセスでの電析挙動を解明し、めっきの結晶組織を最適化するとともに、添加剤の効果や存在状態、前処理効果など成果を出した。

(平成28年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・ 組合支部活動の強化と連携。
 - ・ 組合運営費の削減。
 - ・ 情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・ 土壌汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・ 水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排

出規制）の自主管理に係る啓蒙。

- ・ 改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
 - ・ グリーン調達への対応。
 - ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
 - ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。
 - ・ 生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・ 技術者の育成（めっき技術専門研修）。
 - ・ 新技術情報の収集と提供。
 - ・ 名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。
 - (6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。
 - (7)名古屋市科学館新館常設展示（めっきコーナー）管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。
 - (8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月8日、名古屋マリOTTアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら158名の出席により、平成28年新年賀詞交歓会を開催した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「昨年の経済状況を振り返ると、政府の各種政策効果によるデフレ脱却と円安により、中部地方の輸出型大企業は、前年に引き続き軒並み高業績を上げ、賃上げやベースアップも十分に行われた。しかし中小企業においては円安が逆効果となり、原材料費などの高騰や電気料金の値上げ、人材不足によるコストアップにより経営環境が悪化しており、依然として厳しい状況は続いている。こうした中、日本が今後迎える超高齢化社会や人口減少時代なども考えあわせると中小企業経営者は今

後、増々厳しい舵取りを余儀なくされるものと推測される。安倍首相が唱える一億総活躍社会、またGDP600兆円実現に向けての施策を期待したいものである。中部地方においては、愛知県の製造品出荷額等が43兆6千億円と昭和52年以来38年連続全国1位となったこと、更には「環太平洋連携協定(TPP)」が妥結大筋合意し、関税撤廃など各国が市場を開放することとなり、5年に及ぶ交渉を経て太平洋を囲む巨大経済圏が今後誕生することは、中部圏製造業にとっては非常に大きなプラスになるのではないかと期待している。

組合では、160名を超える参加者による電気めっき技能検定試験の実施や、町工場技能者コンクールを2年連続で開催し、若手技能者の技術向上等に大きな成果を出すともに、諸課題を打破するため、若手の力を結集してめっき業界組合員一致団結して乗り切ってきた。新しい年を迎え、前年にも増して厳しい状況が待ち受けているが、『日本の元気を愛知から』を目標に、業界一丸となって、明るい活力あるめっき業界を目指していく。」

引き続き来賓各氏から祝辞が述べられ、賀詞交歓会となった。

笠間則文氏、旭日双光章受章



平成28年春の叙勲で、顧問理事の笠間則文氏が、長年に亘りめっき業界の振興発展に貢献された幾多の功績により、旭日双光章を受章した。

5月12日ザ・プリンスパークタワー東京にて伝達式が行われ、その後皇居「豊明殿」にて拝謁が行われた。

氏は昭和43年、二葉産業株式会社に入社し、

昭和45年4月には明光工業株式会社の経営に参画、昭和56年8月に両社の代表取締役副社長、昭和60年3月に両社の代表取締役社長就任を経て、平成18年6月に二葉産業株式会社の取締役会長、同年8月に明光工業株式会社の代表取締役会長に就任した。

業界団体においては、平成元年から現在まで、当組合理事、専務理事、副理事長、顧問理事に就任し、めっき業界の発展に粉骨砕身尽力した。平成9年からは当組合の上部団体である全国鍍金工業組合連合会の理事、常任理事、副会長就を経て、平成21年5月に顧問監事に就任した。

今までに、組合功労者として名古屋市長感謝状、業界振興発展功労者として全国中小企業団体中央会会長表彰、愛知県知事表彰、平成18年11月には黄綬褒章を受章した。

なお、叙勲祝賀会が、7月16日、名古屋マリオットアソシアホテルにて開催され、組合関係者を始め会社関係者、関係機関からの来賓ら約200名が出席した。

平成28年度通常総会

5月13日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて平成28年通常総会を開催した。組合員、賛助会員、来賓ら132名出席のもと、平成27年度の事業報告と同収支決算報告、平成28年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「経済状況の一年を振り返ると、政府の各種政策効果によりデフレ脱却、円安誘導で企業収益も過去最高、有効求人倍率も高水準となり、中部地方の輸出型大企業は前年に引き続き軒並み高業績を上げ、賃上げも賞与も大幅に増額された。トヨタは2兆8,500億円の営業利益を上げており、愛知県の製造品出荷額

も43兆8千億と昭和52年以来38年連続で全国1位となっている。こうした中、めっき業界においては、円安が逆効果となり、原材料費等の高騰や、人材不足によるコストアップで経営環境が悪化し、依然として厳しい状況が続いている。そのような状況下、組合ではいろいろな事業を実施してきたが、平成27年度当初の126組合員が、年度末に120組合員となり、大変厳しい状況を反映したものと思っている。教育事業、環境保全事業、技術革新事業等を重点的に進めた。特に人材育成の重要性から、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修、電気めっきの町工場技能者コンクールを継続実施するとともに、160名を超える電気めっき技能検定実技試験を実施するなど、若手の技能者の技術向上等に大きな成果を上げることが出来た。

28年度は、中国の景気減速の影響や米国の利上げ動向などによる景気下振れリスク、さらにはマイナス金利、円高・株安などの懸念があるが、『GDP目標600兆円』『一億総活躍社会』に向けた各種政策の実現に期待したい。本年度もこれまで培ってきた技術の蓄積やめっき加工の新たな開発、安定的な品質確保に取組み『日本の元気を愛知から』を目標に、組合員一致団結して、この難局を乗り切っていきたいと考えている。」

議案審議に先立ち、特別功労賞や感謝状贈呈があり、来賓各氏から祝辞が述べられ賀詞交歓会となった。

ほう素・ふっ素、窒素等の 暫定排水基準

6月16日、ほう素、ふっ素、窒素等の「排水基準を定める省令の一部を改正する省令」が公布され、7月1日から施行された。

ほう素	30mg/ℓ
ふっ素	排水量50m ³ /日未満 40mg/ℓ
	排水量50m ³ /日以上 15mg/ℓ

窒素等は一律排水基準へ移行することとなった。

竹内克弘氏、県条例表彰受賞

11月18日、竹内克弘氏が産業功労者として第68回愛知県表彰条例表彰を受賞した。氏は、多年にわたり鍍金業に従事するかたわら、関係団体の要職にあつて組織の強化育成に尽力し商工業の振興に貢献したことから、愛知県表彰条例により表彰され、大村秀章知事より表彰状が授与された。

●平成28年表彰

- ・ 笠間則文氏 旭日双光章(平成28年春の叙勲)
- ・ 竹内克弘氏 愛知県条例表彰(産業功労)
- ・ 宮田敏美氏 愛知県知事表彰(永年勤続優良職員)
- ・ 水野光隆氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・ 竹中敬治氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・ 二村義博氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・ 笠間亮次氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・ 長谷川秋夫氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)

平成29年

平成29年の経済状況は、政府は継続的な金融政策、経済対策を推し進め、大企業は引き続き高業績を上げるとともに、中部地域においては、自動車産業の順調な成長等があり、愛知県の製造品出荷額等が46兆円を超え昭和52年以来39年連続で全国第1位と、2位の神奈川県をさらに大きく引き離し、非常に元気があった。

こうした中、めっき業界においては、政府によるものづくり補助金等各種支援施策、中小企業等経営強化法の強力な後押しにより良くなっているが、経営環境が悪化し依然好景気を感じられない状況が続いた。これら厳しい経営環境の中、当組合は200名を超える受検者による電気めっき技能検定試験の実施、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修を継続実施するとともに、新たに生産性向上支援訓練を実施し、技能者の技術向上、職場環境の改善に大きな成果を上げた。

さらに名古屋市工業研究所と共同して「すず合金めっきによる高機能化めっき技術の開発」研究に取組、一定の成果を出した。

(平成29年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・ 組合支部活動の強化と連携。
 - ・ 組合運営費の削減。
 - ・ 情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・ 土壌汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。

- ・ 水生生物保全のための排水基準に係る対応。
- ・ ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排出規制）の自主管理に係る啓蒙。
- ・ 改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
- ・ グリーン調達への対応。
- ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。

(5)技術革新による経営の刷新を図ります。

- ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。
- ・ 生産技術の向上及び品質の高度化。
- ・ 技術者の育成（めっき技術専門研修）。
- ・ 新技術情報の収集と提供。
- ・ 名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。

(6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。

(7)名古屋市科学館新館常設展示（めっきコーナー）管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。

(8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月13日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら159名の出席により、平成29年新年賀詞交歓会を開催した。伊藤理事長はつぎのように挨拶を行った。

「昨年の経済状況においては、政府の経済対策等により、大企業は為替が円高に振れたため、多少利益は減少したとはいうものの、引き続き高業績を上げている。一方中小零細企業においては、政府からの施策はあるものの依然として好景気には程遠く厳しい状況が続いた。トリクルダウンは言葉だけで期待できそうにない。中部地区は、トヨタの動きがそのまま景況を左右する。一時、愛知製鋼の爆発事

故や熊本地震の影響で、生産が落ち込んだ時もあったが、年末までには挽回している。

そうした中、組合においては、「ものづくりは人づくり」を実践する電気めっき技能検定試験を、150名を超える参加者により実施した。初心者めっき研修・業界対応研修も実施し、若手の技能者の技術向上に大きな成果を出すとともに、諸課題を打破するため、若手の力を結集してめっき業界組合員一致団結して乗り切ってきた。新しい年を迎え、前年にも増して厳しい状況が待ち受けているが、めっきは、すべての産業の元、産業の血液として、業界一丸となって輝き活力あるめっき業界を目指していく。」

来賓各氏からの祝辞があり、祝宴となった。

平成29年度通常総会

5月12日、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋において平成29年度通常総会を開催した。組合員、賛助会員、来賓ら140名が出席し、平成28年度の事業報告と同収支決算報告、平成29年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決した。また任期満了に伴う役員の改選を行い、神谷篤氏を新理事長に、鈴木泰造氏、笹野恭史氏、佐藤寿訓氏を副理事長に、清水謙一氏を専務理事にそれぞれ選任した。神谷新理事長はつぎのように就任挨拶を行った。

「このような大役を引き受けることになり非常に緊張している。先の伊藤理事長におかれましては、11年間という長い間、私ども組合員、業界をそのパワーと持前の人をまとめる力により引っ張って頂いた。私にはとてもそのような力も何もないが、私の仲間、組合員の皆様が無条件で助けて頂けると信じている。その時の常識が通用しない時代であり、何が起きるかわからない状態となっており、私一人ではできないが、

行政、全鍍連、中央会その他の皆様、そして何よりも組合員の皆様と一緒に頑張っていきたい。」

来賓祝辞の後、懇親会が行われた。

伊藤豪氏、旭日双光章受章



平成29年春の叙勲で、伊藤豪理事長が、長年に亘るめっき業界の振興発展に貢献された幾多の功績により、旭日双光章を受章した。

5月11日ザ・プリンスパークタワー東京地下2階において伝達式が行われ、その後皇居「豊明殿」にて拝謁が行われた。

氏は、昭和41年12月に父が創業した太陽電化工業株式会社に入社し、めっき技術の取得、めっき工場の経営に必要な資格を取得するなど業務遂行能力の開発に努めた。昭和46年に創業者社長が没すると、常務取締役就任、経理、技術、生産などに携わり、平成8年3月に実兄より代表取締役を継承されたのち、工場を新築、効率的かつ明るく清潔な環境にし、生産、売上を伸ばすとともに、平成11年5月には有限会社サンルミナスを設立、代表取締役に就任し、装飾貴金属めっきなど事業の多角化を図った。平成27年には新工場を完成させ事業の拡大に努め、平成29年5月会長に就任した。

業界団体においては、平成9年5月から当組合の理事に就任、平成13年副理事長、平成18年に理事長、平成29年より顧問理事となり、20年に亘ってめっき業界の発展に粉骨砕身尽力した。平成11年からは全鍍連総務委員会の委員、平成13年に理事として環境委員会副委員長、技術委員会委員長を歴任、その後常

するとともに、雇用、所得環境の改善により、緩やかに回復した。中部地域においても好調な自動車産業、リニア中央新幹線の2027年度開業に向けた本格的な工事の施工、MRJの飛行試験の採集に向けた本格的な実施等があり、愛知県の製造出荷額等が46兆円を超えるなど、非常に元気があった。

こうした中、めっき業界においては、政府によるものづくり補助金等各種支援施策、中小企業等経営強化法の強力な後押しにより良くなっているが、経営環境が悪化し依然好景を感じられない状態が続いた。

これら厳しい経営環境の中、組合としては、人材育成の重要性から、160名を超える受検者による電気めっき技能検定実技試験を実施、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修を継続実施するとともに、生産性向上支援訓練を実施し、職場環境の改善、若手技能者の技術向上に大きな成果を出すとともに、諸課題を打破するため創立60周年を迎えた若手技術技能集団である「名鍍会」の力を結集してめっき業界、組合員一同団結して大きな成果を上げた。また更なる公的機関の中小企業支援等の情報提供、情報ネットワークシステムの更なる活用に努めるとともに、中部六県のめっき組合で構成する東海・北陸ブロック会議の幹事県として日頃それぞれが抱える課題、解決方法についての意見交換を図った。さらに名古屋市工業研究所と共同して2年間にわたり「すず合金めっきによる高機能化めっき技術の開発」研究に取り組み、一定の成果を出した。

(平成30年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・ 組合支部活動の強化と連携。

- ・ 組合運営費の削減。
- ・ 情報ネットワークの活用。

(3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画（BCP）の作成普及啓発を図ります。

(4)環境保全の更なる推進に努めます。

- ・ 土壌汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・ 水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ ニッケル排水、有害大気汚染物質（VOC排出規制）の自主管理に係る啓蒙。
 - ・ 改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
 - ・ グリーン調達への対応。
 - ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
- ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。
 - ・ 生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・ 技術者の育成（めっき技術専門研修）。
 - ・ 新技術情報の収集と提供。
 - ・ 名古屋市とのものづくり団体共同研究への参画。

(6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。

(7)名古屋市科学館新館常設展示（めっきコーナー）管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。

(8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月11日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら166名の出席により、平成30年新年賀詞交歓会を開催した。神谷理事長はつぎのように挨拶を行った。

「平成30年ということで、当時の小渕官房長官が平成の元号を発表して以来もう30年が

任理事、副会長、平成23年に会長に就任し、平成25年に常任顧問理事、平成29年より顧問理事となり、厳しいめっき業界の舵取りや、人材の確保・育成、業界の技術力向上・組織力強化、持続的経営を維持するためのビジョン策定、中小企業の労務管理の合理化、労働条件の改善向上に尽力した。

なお、受章祝賀会は、9月16日ウェスティンナゴヤキャッスルにて開催し、関係者約280名が出席した。

鈴木泰造氏、黄綬褒章受章



平成29年春の国家褒章で、鈴木副理事長が、長年に亘りめっき業界の振興発展に貢献された幾多の功績により、黄綬褒章を受章した。

氏は昭和48年、父が創業した鈴木鍍金工業株式会社に入社し、以来一貫してめっき工に従事しながら、各種の免許、資格を取得する中で、一級めっき技能士の資格も取得するなど、常に技術の研鑽に努めた。平成4年に代表取締役役に就任し、平成23年には工場を全面移転し拡大成長を続けている。氏は電子機器に搭載する部材用の亜鉛めっき浴（高性能スーパージケート浴）を完成させ、亜鉛めっきにおけるウイス力の無発生技術を達成した第一人者である。独自に開発したスーパージケート浴の工程管理、およびバレルの作動方法により、最高水準の品質のめっき皮膜が要求される中空部品を高電流部から低電流部まで均一のめっき皮膜を実現させ、特に自動車部品のプラグタイト製品において、めっき皮膜の硬さが適度に軟らかく曲げ加工に優れ、割れが生じにくく、加熱による皮膜の

剥離がほとんどないことから、自動車業界において高い評価を得ている。

なお、受章祝賀会は、7月22日、名古屋マリオットアソシアホテルにて、組合関係者始め会社関係者、関係機関からの来賓140名の出席により開催した。

笠間則文氏、県条例表彰受賞

11月17日、笠間則文氏が産業功労者として第68回愛知県表彰条例表彰を受賞した。氏は、多年にわたり鍍金業に従事するかたわら、関係団体の要職にあって組織の強化育成に尽力し商工業の振興に貢献したことから、愛知県表彰条例により表彰され、大村秀章知事より表彰状が授与された。

●平成29年表彰

- ・伊藤 豪氏 旭日双光章(平成29年春の叙勲)
- ・鈴木泰造氏 黄綬褒章(平成29年春の褒章)
- ・笠間則文氏 愛知県条例表彰(産業功労)
- ・笹野恭史氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・杉浦候二氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・笹野恭史氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・杉浦候二氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・神谷 篤氏 全国中小企業団体中央会会長表彰(組合役員功労)
- ・若子光憲氏 愛知県中小企業団体中央会会長表彰(組合役員功労)
- ・山内教義氏 愛知県中小企業団体中央会会長表彰(組合役員功労)

平成30年

平成30年の経済状況は、政府による継続的な金融政策や経済対策を押し進め、企業収益が過去最高となる中で、設備投資が増加

経ったのだとしみじみ思う。10年ひと昔と言うが、あっという間に年月は過ぎるものである。1日、1日を大切にしないといけないと思う。私が理事長になってから半年が経過するが、特に大きな事故もなく、災害もなく、安定した政権のもとで、私どもは順調に仕事をさせて頂いた。今年は戌年ということで、十二支の一巡に向かって今までの努力の結果が出る年である。さらに結果が出た後に、次の基準に向かっての種まき、新しい年に向かって対応してくれということである。特に私ども製造業の自動車、AI、ロボット、自動化等予想以上のスピードで進んできており、乗り遅れないよう一丸となっていきたいと思う。」

来賓各氏からの祝辞の後、賀詞交歓会となった。

「生産性向上支援訓練」 研修会開催

生産性向上人材育成支援センターから「生産性向上支援訓練」の委託を受け、1月23日と2月20日に、KWPコンサルティング株式会社代表取締役の本多貴治氏を講師として、『生産現場の問題解決』をテーマに研修会を行った。氏は研修のために自ら当組合事業所2社を事前に訪問し、めっき業界における現場の問題点を把握したうえで、「“現場のムダ”を“儲けの宝に”！その着眼と活動のポイント！」をテーマとして研修会を行った。研修会には組合員事業所から20名が参加し、講義のほかグループ討議を行い、活発な意見が繰り広げられた。

次に、10月20日と27日に株式会社サーテックカリヤ大津崎向上において『品質管理実験』をテーマに研修を実施した。講師は前回同様、KWPコンサル株式会社代表取締役の本多貴治氏が務めた。

さらに11月10日と24日には、名古屋市工業研究所において、公益社団法人愛知労働基準協会の伊藤俊司氏を講師として、当業界必須である化学物質を取り扱う「職場の安全衛生活動」や、リスク管理のための「点検手法に係る知識の習得」を目的とした研修会を行った。

平成30年度通常総会

5月11日、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋において平成30年度通常総会を開催した。組合員、賛助会員、来賓ら140名が出席し、平成29年度の事業報告と同収支決算報告、平成30年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認・可決した他、監事に竹内克弘氏を選任した。神谷理事長はつぎのように挨拶を行った。

「平成最後の総会になるが、昨年のものでの就任以来、あっという間に一年が経過した。この一年の経済状況を振り返ると、概ね安定した状況であった。めっき業界においても、基幹産業である自動車が大変好調であり恩恵を受けている状況である。しかし、好景気の陰にまず人材不足、働いている方々、特に中間管理職の方々がいないことを聞いており、製造業だけでなく、小売り、サービス業すべてに人材不足であると聞いている。好調な経済状況の中、少し不安である。

私ども組合においては、特に人材育成の重要性から、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修、生産性向上支援訓練を実施するとともに、200名を超える電気めっき技能検定実技試験を実施した。30年度も各研修会や電気めっき技能検定実技試験の実施を予定している。平成30年度につきましても、政府による様々な経済対策支援をうけながら、めっき業界発展の手伝いが

できたらと思う。」

総会では理事長より、前期組合役員への感謝状贈呈や、技能検定の成績優秀者に賞状と記念品が贈呈された。議案審議の後、来賓各氏の祝辞があつて懇親会となった。

東海・北陸ブロック会議

10月19日、名古屋国際ホテルにおいて、全鍍連の東海・北陸ブロック会議が開催された。当組合が開催幹事県であり、神谷理事長始め18名が参加した。開催幹事県代表として神谷理事長の挨拶から始まり、続いて全鍍連清水専務理事より全鍍連概況並びに事業活動報告があつた。その後、岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県、愛知県の各組合から概況報告があつた。

神谷篤氏、藍綬褒章受章



平成30年秋の国家褒章で、神谷理事長が、長年にわたり、中小企業振興発展に貢献された幾多の功績により、藍綬褒章を受章した。

氏は、昭和63年に有限会社竹田鍍金工業に入社、めっき技術の習得とともにめっき工場の経営に必要な資格を取得するなど業務遂行能力の開発に努め、平成2年に取締役、平成3年には代表取締役に就任し、生産、売上を伸ばし事業の拡大に努めた。

氏は、昭和63年に有限会社竹田鍍金工業に入社、めっき技術の習得とともにめっき工場の経営に必要な資格を取得するなど業務遂行能力の開発に努め、平成2年に取締役、平成3年には代表取締役に就任し、生産、売上を

伸ばし事業の拡大に努めた。

業界団体においては、平成5年から2年間で平成11年から組合の理事、平成16年から常任理事、平成21年から専務理事、平成23年から副理事長、平成29年からは理事長に就任し、経済状況が厳しく、かつ技術革新等激変の中、めっき業界発展に尽力し、常に経営安定化に努め、人材の育成、技術力の強化、業界の地位向上を図り組合事業を推進した。平成17年からは上部団体である全鍍連の監事、理事、常任理事、総務担当副会長、技術担当副会長となり、厳しい経営環境の中、日本のめっき業界の円滑な運営の推進に尽力した。

なお受章祝賀会が、翌年2月17日、名古屋マリOTTアソシアホテルにおいて、来賓ら約190名の出席のもと開催された。

名鍍会、創立60周年記念

10月6日、名古屋国際ホテルにて、名鍍会創立60周年記念式典を開催した。式典の後に、国際自動車ジャーナリストの清水和夫様による記念講演も行われた。



●平成30年表彰

- ・ 神谷 篤氏 藍綬褒章(平成30年秋の褒章)
- ・ 伊藤 豪氏 愛知県中小企業共済協同組合表彰(役員功労)
- ・ 愛知県鍍金工業組合 愛知県中小企業共済協同組合表彰(組合功績賞)

- ・鈴木泰造氏 愛知県能力開発促進大会感謝状(技能検定員永年勤続)
- ・落合慎一氏 愛知県能力開発促進大会感謝状(技能検定員永年勤続)
- ・沓名正文氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・前川恵一氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)

平成31年・令和元年

2019年(平成31年・令和元年)の経済状況は、米中貿易摩擦や中国経済の減速等を背景に外需が弱まった中、政府による継続的な金融政策、経済対策が推し進められ、雇用・所得環境の改善により、内需を中心に緩やかに回復してきた。中部地域においては、堅調な自動車産業に支えられ、企業収益は高めの水準を維持し、雇用・所得環境も概ね良好であったが、めっき業界においては、依然として好景気を感じられない状況が続いた。

そのような中、組合は、老朽化が進み、耐震補強もしておらず、駐車場の問題から組合活動の場としてもあまり活用されていない中川区の鍍金会館について、名古屋市工業研究所への事務局移転と併せて、その活用、処分について検討を進めた。さらに組合の取り組んだものとして、人材育成の重要性から、160名を超える受検者による電気めっき技能検定実技試験の実施、めっき初心者技術研修、労働安全衛生研修、メンタルヘルス研修を継続実施するとともに生産性向上支援訓練を実施し、職場環境の改善、若手技能者の技術向上に大きな成果を上げた。また、環境問題における排水基準について、ほう素、ふっ素、亜鉛の一律排水基準クリアのための指導等の実施、施設の構造等に関する基準の順守、定期点検の実施など水質汚濁防止法への取組、

さらには土壌汚染対策法の諸問題への対応に努力した。

(2019年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・組合支部活動の強化と連携。
 - ・組合運営費の削減。
 - ・情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画(BCP)の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・土壌汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ニッケル排水、有害大気汚染物質(VOC排出規制)の自主管理に係る啓蒙。
 - ・改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
 - ・グリーン調達への対応。
 - ・化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
 - ・新技術の開発と導入及び需要拡大。
 - ・生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・技術者の育成(めっき技術専門研修)。
 - ・新技術情報の収集と提供。
 - ・名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。
- (6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。
- (7)名古屋市科学館新館常設展示(めっきコーナー)管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。
- (8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月11日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、平成31年新年賀詞交歓会を開催し、組合員、賛助会員、来賓ら160名が出席した。神谷理事長はつぎのように挨拶を行った。

「昨年は、何といっても自然災害が思い起こされる。幸いにも愛知県には大きな被害はなかったが、未だに仮設や再建できない方がいると聞いている。災害があったとき海外メディアからは、日本は暴動も起きないし、互いに助け合って乗り切っていると言われるが、聞いた話では、日本は自然災害にずっとあってきている人種である。諸外国は人間構成と闘ってきた人種であり、私ども日本人は自然災害と闘ってきたわけで、そのDNAが入っており、一致団結して対応できる素晴らしい国であり、そんな国に生まれて幸せだと思う。我が国はいいが、世界の中で生きているので、外からの影響で何が起こるかわからない。しかしまだ何も起こっていないことを怖がってもしようがない。先も言ったように、日本人、仲間で助け合っていけば、どんなことが起こっても乗り切っていける。特に愛知県鍍金工業組合は非常に仲良く対応していると思っている。」

その後、来賓各氏から祝辞が述べられ、賀詞交歓会となった。

2019年度通常総会

5月10日、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋において、組合員、賛助会員、来賓ら140名出席のもと、2019年度通常総会を開催した。平成30年度の事業報告と同収支決算報告、2019年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決した。また任期満了に伴う役員の改選で、理事長に神谷篤氏、副理事長に鈴木泰造氏、笹野恭史氏、

清水謙一氏を、専務理事に水野光隆氏をそれぞれ選任した。神谷理事長はつぎのような挨拶を行った。

「5月に入り10連休もおわり、また元号も変わった。この一年の経済状況を振り返ると、愛知県は自動車関係を始めとして概ね順調に推移したと思うが、米中の貿易摩擦問題等先が見えない面もある。いずれにしても、これで一年が終わったわけだが、今年度も、ますます発展していきたいと考えている。」

議案審議に先立って感謝状の贈呈、技能検定の成績優秀者へ賞状と記念品が贈られ、議案審議の後、来賓各氏の祝辞があつて懇親会となった。

事務局長の交代

長谷川秋夫氏が5月20日付で退任し、後任に長谷川康征氏が就任した。

伊藤豪氏、県条例表彰受賞

11月20日、伊藤豪氏が産業功労者として、第71回愛知県表彰条例表彰を受賞した。氏は、多年にわたり鍍金業に従事するかたわら、関係団体の要職にあつて若手技能者の育成等に尽力し商工業の振興に貢献したことから、愛知県表彰条例により表彰され、大村秀章知事より表彰状が授与された。

●平成31年・令和元年表彰

- ・伊藤 豪氏 愛知県条例表彰(産業功労)
- ・神谷 篤氏 中小企業庁長官賞(産業功労)
- ・山内教義氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・若子光憲氏 愛知県知事表彰(組合功労)
- ・山内教義氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・若子光憲氏 名古屋市長表彰(組合功労)

- ・ 水野光隆氏 愛知県中小企業団体中央会
会長表彰(組合功労)
- ・ 二村義博氏 愛知県中小企業団体中央会
会長表彰(組合功労)
- ・ 竹中敬治氏 愛知県中小企業団体中央会
会長表彰(組合功労)
- ・ 笠間亮次氏 愛知県中小企業団体中央会
会長表彰(組合功労)
- ・ 宮田敏美氏 全国中小企業団体中央会
会長表彰(組合専従優良職員)

令和2年

令和2年の経済状況は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、リーマン・ショック後に匹敵するマイナス成長となった。諸外国がロックダウンに陥る中、国内でも4月に初の緊急事態宣言が発出され、出勤、外出の抑制、飲食店等の営業自粛により、経済活動が大幅に落ち込んだ。5月下旬に緊急事態宣言が解除されて以降、景気は回復に向かったが、感染症再拡大により、再度緊急事態宣言が発出される等、この危機は世界中で継続し、終息には至らなかった。中部地域でも、感染症の影響は大きく、緊急事態宣言が発出された4月以降、経済活動が急速に落ち込んだものの、夏には持ち直しの兆しが見え、秋には自動車関連産業を中心に持ち直し、冬以降も緩やかに改善した。めっき業界においても、感染症の影響は受けているが、政府等の各種支援施策に支えられ、自動車関連産業の回復とともに持ち直してきてはいるが、依然として取り巻く経済環境は厳しい状況であった。

そのような中、組合は、老朽化が進み、耐震補強もしておらず、駐車場の問題から組合活動の場としてもあまり活用されていない鍍金会館の土地、建物を3月に処分するとともに、組合員の置かれた厳しい環境に、より親密に

対応するため、組合事務局を鍍金会館(中川区)から、利便性が高く、研修や技能検定等で緊密に連携している名古屋市工業研究所(熱田区)内へ、令和2年4月に移転した。しかし、感染症拡大の懸念から例年実施している通常総会は縮小開催となり、懇親会や賀詞交歓会、ボウリング大会、各種研修や技能検定等の事業については中止せざるを得なかった。このような状況下ではあるが、「ものづくりは人づくり」の観点から、人材育成の重要性に鑑み、長年の懸案であり夢でもあった、電気めっき技能検定試験設備の常設に取り組み、令和2年12月に名古屋市工業研究所内に完成させた。

(令和2年重点事項)

- (1)中小企業施策に関わる各種制度の情報提供を図ります。
- (2)組織と財政の強化及び情報ネットワークの普及・啓発を図ります。
 - ・ 組合支部活動の強化と連携。
 - ・ 組合運営費の削減。
 - ・ 情報ネットワークの活用。
- (3)地震等自然災害対策の推進や事業継続計画(BCP)の作成普及啓発を図ります。
- (4)環境保全の更なる推進に努めます。
 - ・ 土壌汚染対策法等新たな環境規制に対する環境整備。
 - ・ 水生生物保全のための排水基準に係る対応。
 - ・ ニッケル排水、有害大気汚染物質(VOC排出規制)の自主管理に係る啓蒙。
 - ・ 改正水質汚濁防止法等、「亜鉛」「ほう素」「ふっ素」「硝酸性窒素・亜硝酸性窒素」の規制並びに施設の構造等に関する基準及び定期点検の実施への対応。
 - ・ グリーン調達への対応。
 - ・ 化学物質の管理及び労働環境の向上。
- (5)技術革新による経営の刷新を図ります。
 - ・ 新技術の開発と導入及び需要拡大。

- ・生産技術の向上及び品質の高度化。
 - ・技術者の育成(めっき技術専門研修)。
 - ・新技術情報の収集と提供。
 - ・名古屋市とものづくり団体共同研究への参画。
- (6)中小企業人材確保推進事業の定着を図ります。
- (7)名古屋市科学館新館常設展示(めっきコーナー)管理協力し、「めっき」のPR活動を行います。
- (8)表面処理に関するガイドブックの普及を図ります。

新年賀詞交歓会

1月10日、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、組合員、賛助会員、来賓ら163名の出席のもと令和2年新年賀詞交歓会を開催した。神谷理事長はつぎのように挨拶を行った。

「昨年を振り返ると、この地域は基幹産業がしっかりしているので、概ね良好な年であり、今年もそんな感じでいけばいいと思っている。ただ洪水等の自然災害が大変多くなっており、特に私どもめっき業は、昔は川に排水を流していた関係で、川のすぐ傍に工場が建っているので、災害のことも常に頭に置いておかなければならない危険な時代になった。また世界状況も様々なことが起こっており、地震も来る等いろいろな話を聞かすが、どれもこれも私共がどうにかすることはできない。危機感を持っているが、いざそうなった時は、組合らしく明るく元気にやっていきたいと思う。『病は気から』という言葉があるが、景気も気からではないかと思う。景気も気からであり、皆がだめだ、だめだと言うと景気もだめになってしまうので、今年はいいぞ、と皆で盛り上げていきたいと思う。」

来賓4氏からの祝辞の後、祝宴に入り、賀詞交歓会となった。

臨時総会

3月18日、名古屋市工業研究所管理棟4階第2会議室にて、組合員102名が出席のもと臨時総会を開催し、老朽化が進み、耐震補強もしておらず、駐車場の問題から組合活動の場としてもあまり活用されていない鍍金会館について、建物及び土地処分の案を審議、満場一致で承認、可決した。

令和2年度通常総会

5月15日、名古屋市工業研究所管理棟4階第2会議室にて、令和2年度通常総会を開催した。総会は新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、組合員のみ89名が出席し、2019年度の事業報告と同収支決算報告、令和2年度事業計画及び同収支予算案を審議、満場一致で承認、可決した。神谷理事長はつぎのように挨拶を行った。

「組合は事業年度終了後2カ月以内に通常総会を招集しないといけなと定められているが、新型コロナウイルスの関係からこのような会合は極力控えたいと考えていた。5月には収束すると思っていたが、できるだけ小規模にするべく、組合員のための総会とし、懇親会はなしとした。鍍金会館については、3月の臨時総会でご承認いただいた後、予定通り3月26日、居ぬきにより建物・土地を完全に売却した。その後、事務局についても、4月21日に名古屋市工業研究所へ移転もした。今後どうなっていくのか、先は見えないが、情報交換、情報提供を密にして、一致団結して乗り越えていきたいと思う。」

技能検定の成績優秀者に賞状と記念品の贈呈が行われ、議案審議の後、散会した。

臨時総会

7月22日、名古屋市工業研究所電子棟2階第5会議室にて、感染防止対策を十分留意したうえで、組合員90名が出席のもと臨時総会を開催した。

鍍金会館を売却したことに伴い、従来、鍍金会館に保管していた技能検定設備の保管場所がなくなったため、名古屋市工業研究所に対して付属棟の常時賃借を要望していたところ、常時賃借は認められたがその面積が少なくなり、今までの設備では設置できなくなった。そのため、常時賃借が可能となった場所で技能検定試験が実施できるようコンパクトなめっき装置を常設し、組合員で課題となっている外国人技能実習生のための随時級技能検定試験についても、組合事業として取り組んでいきたい旨の説明があり、事業計画書変更、収支予算書変更、資金計画書(案)を審議、満場一致で承認、可決した。

技能検定試験設備の完成

臨時総会で決議後、設置工事を進めてきた技能検定設備が、12月17日に完了した。それに先だち、11月1日理事会後に役員への内覧を実施した。

●令和2年表彰

- ・ 水野善仁氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)
- ・ 水野民樹氏 全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)

令和3年

令和3年の経済状況は、内外における新型コロナウイルスによるパンデミックの影響から

引き続き厳しい状況だった。新型コロナウイルスは世界中の経済・社会に多大な影響を及ぼしたが、デルタ株についてはワクチン接種の普及により、秋以降、ひとまずピークアウトし、新規感染者の低位安定とともに人出も回復し、弱さはあるものの景気は持ち直しつつあった。しかし、感染力の強いオミクロン株が世界的に拡大し、感染状況次第では、工場稼働や部材調達など、製造業での供給問題が再び浮上する懸念があり、社会経済活動の正常化へは道半ばとなった。この地域においても、1月、5月、8月の3回にわたって緊急事態宣言が発出され、その度に出勤、外出の抑制、飲食店等の営業自粛により経済活動が大幅に落ち込んだ。しかし10月に緊急事態宣言が解除されて以降、海外経済の回復もあり、景気は緩やかに回復に向かったが、車載用半導体不足や東南アジア等での新型コロナウイルス感染拡大による部品工場の稼働停止や大幅な減産により、自動車メーカーは大幅な減産を余儀なくされ、地域の自動車関連産業にも大きな影響を与えた。徐々に正常化に向かい、減産分を補う生産増が期待されるが、一方で資源価格の高騰による原材料高、燃料高が企業の収益を圧迫した。

めっき業界においても、新型コロナウイルスや資源価格の高騰等の影響を大きく受けており、政府による「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」が進められているが、急速なEV化の進展や水質環境規制の厳格化、さらにはカーボンニュートラルへの対応等取り巻く経済環境はさらに厳しくなっている。

このような状況ではあるが、組合では、組合員を取り巻く厳しい経営環境に対応すべく、その運営体制をより一層強化するため、執行部体制を見直して、副理事長を3人から4人へと増員した。さらに人材育成の重要性から、前年度に新設した電気めっき技能検定試験設

備をフル活用し、160名を超える受検者による夏季の定期技能検定試験に加えて、390名を超える外国人技能実習生のための随時技能検定試験を通年で実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症への懸念から、例年実施している通常総会は縮小開催となり、懇親会や賀詞交歓会、ボウリング大会、さらには各種研修等の事業については、前年度に引き続き、その多くを中止せざるを得なかったが、組合員や賛助会員への感染拡大を防ぐため、職域接種に参画し、ワクチン接種の促進を図った。

外国人技能実習生の技能検定試験

令和3年度より、常設した技能検定試験設備を活用して、外国人技能実習生の随時検定試験が本格的に実施されることとなり、4月からほぼ毎月2～3日のペースで行った。

令和3年度通常総会

5月14日、名古屋市工業研究所管理棟3階第1会議室において、令和3年度通常総会を開催した。総会には、新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、組合員のみ97名が出席した。令和2年度の事業報告と同収支決算報告、令和3年度事業計画及び同収支予算案、さらに組合の運営体制をより一層強化するために副理事長を3人以内から4人以内に増員するための定款の一部改正(案)を審議、満場一致で承認、可決した。また任期満了に伴う役員の改選で、理事長に神谷篤氏、副理事長に鈴木泰造氏、清水謙一氏、水野光隆氏、笹野恭史氏を、専務理事に笠間敦嗣氏をそれぞれ選任した。神谷理事長はつぎのように挨拶を行った。

「昨年度を振り返ると、コロナ、コロナの一年

あった。コロナの関係から、技能検定試験をはじめ、各講習会、研修会、そして賀詞交歓会、ボウリング大会等様々な催しを中止せざるを得ず、大変歯がゆい一年であった。そのような中、昨年4月には、事務局を移転させ、新しい技能検定試験設備の常設に取り組み、12月に完成させた。新しい設備では、毎月外国人技能実習生のための随時技能検定試験が実施されるので、従来の定期技能検定試験に加えて、業界の人材育成とともに組合の安定財源にも繋がると期待している。

さて、本年は組合創立90周年を迎える節目の年となる。コロナ禍であるので、大々的なことはできないが、10年を振り返る記録の発行等ささやかな記念事業を考えている。ワクチンが普及すれば徐々に元に戻っていくことが期待されるが、今年いっぱい是不透明な状況が続くそうである。めっきの施設も新設し、気持ちを新たに、組合員一致団結して乗り越えていきたいと思う。」

総会では、前期組合役員への感謝状贈呈などが行われ、議案審議の後散会した。

環境委員会

11月1日、名古屋市工業研究所管理棟第3会議室において、環境委員会を開催し、神谷理事長始め環境委員等18名が参加した。

会議では、まず、全鍍連武田技術顧問から、令和3年12月に暫定排水基準の適用期限が12月に迫った亜鉛について、国の動き等の説明があり、続いて(株)ダイセキ環境ソリューションより、特定施設の廃止に係る手続きとコスト・注意点について説明があった。特定施設の廃止については、土壌汚染対策法、水質汚濁防止法が関係し、複雑であり、その流れ、手続き、コスト等について具体的な説明を受けた。

亜鉛含有量に係る暫定排水基準

12月11日、「排水基準を定める省令等の一部を改正する省令の一部を改正する省令」が施行された。

	H18.12 ~R3.12	R3.12 ~R6.12
金属鋳業	5mg/ℓ	設定しない
電気めっき業	5mg/ℓ	4mg/ℓ
下水道業	5mg/ℓ	設定しない

金属鋳業、下水道業は一律排水基準へ移行し、電気めっき業における暫定排水期間も3年間となった。

●令和3年表彰

- ・伊藤 亮氏 愛知県知事表彰(優秀技能者)
- ・水野光隆氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・二村義博氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・竹中敬治氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・笠間亮次氏 名古屋市長表彰(組合功労)
- ・前川恵一氏 愛知県中小企業団体中央会
会長表彰(組合功労)

めっき業界の未来を想う

顧問 石井 博



組合設立記念事業は、昭和56年3月15日名古屋市公会堂で実施された50周年記念式典が始まりである。その後、10年間の周期で事業が行われ令和3年が90周年に当たるとの事である。当時、中島茂清理事長の発案で2年間位かけて記念事業を行った。その事業は①物故者慰霊祭②組合50年史の発行③記念式典の実施等であった。当時の組合の理事

全員がそれぞれのグループに所属し、約2年間のスケジュールを立て種々の事業を実施した。各事業とも十分な予算があって行う状況ではなかったため、創意工夫が必要であった。私は記念誌編集グループに入った。その組織は委員長高木誠治、委員石井博、石黒勇、竹内克弘諸氏であった。歴代資料の調査編集はセリタ・ピー・アール企画(株)の芹田一夫氏が担当した。記念事業を実施するに当たってまずは資金手当である。100社を超える会社から50年史に掲載する広告及び協力金を頂いた。役員揃い踏みで事業推進のため各社を訪問しお願いしてまわった。又、芹田一夫氏の費用節減のため芹田氏を石井宅に2泊してもらい私が鶴舞の図書館へ送り迎えした。又、記念誌作成のための、特別座談会を実施すると共に、めっき業界と関係の深い先生方、関連業界の方々に執筆依頼し、それぞれ原稿を頂いた。又組合理事からの執筆は、環境については高木、技術は小山、技能検定は石井が原稿を作成した。40年経過した現在、当時、問題提起した課題はまだ続いている。

組合設立90年を向かえるに当たり今後の取り組みについて私見を申し上げたい。

①組合員の減少が続いている

昭和46年水濁法の施行時には約300社位であったものが、平成元年には226社、令和3年には108社となった。現在支部組織は尾張2、名古屋5、三河2となっている。尾張と名古屋は少し1支部当りの員数を多くする支部再編成を行う。私の所属する名古屋北支部は10社を切る状況である。その結果、理事の数が減少するため理事長を始めとして役員構成を変更する。

②環境対策はこれまで以上に対策を強化する

現在電気めっき業については、暫定排水基準で操業しているが、一刻も早く一律基準の操業としなければならない。特に亜鉛めっきは愛知県の仕事量が全国1位であることから、一日も早く仮免許を返上しなければならない。昭和46年水濁法施行時にめっき業界は工場内の工程見直し、節水対策を徹底的に行わず、排水処理装置メーカーに丸投げして対応した。その結果、連続式総合排水処理法なるものを取り入れ基準を順守している。その結果めっきスラッジの再資源化には経済産業省及び各単組のころみは全て成果を挙げていない。組合結成100年に向けて今後めっき業を継続する事業所は、老朽化した装置の入換時には、設備のレイアウト、排水の分別処理対策を行い、節水と回分式排水処理方式を取り入れる努力をしなければならない。

③亜鉛-ニッケル合金めっきの工場量産の実現化を急ぐこと

愛知県のユーザーからのめっき依頼は、防錆めっきの亜鉛めっきが一番多いことは承知しているが、六価クロメートを廃止して現在三価クロメートで対応している。クロメート原液は薬品メーカーのものを購入して使用している。私の工場は、亜鉛めっきを行っていないので詳しくはその状況を把握していないが、購入時にはMSDS(材料の安全性データ)を必ずもらって使用していただきたい。材料メーカー

は、内容は出来るだけ伏せ出来栄を売りにしているだけでは、環境対策が一步前進することができない。排水処理対策を充分吟味した上での採用としなければならない。この際、クロメート処理をしなくても良い亜鉛-ニッケル合金めっきの実用化を推し進めるべきである。その為には市工研の実験だけではなく、実験用の小型装置を作製し、その装置を利用し実用化に向けて日々試作を行い評価しなければならない。

④電気めっき技能検定実技試験の継続と従業員の技能向上

私が実技試験の検定補在員として関わったのは昭和39年2月である。愛知県から委託を受け第1回が開催された。その日の前夜から気温が下がり雪も5cm位積もった。朝9時が開催予定であった。しかし、中区松ヶ枝町の鍍金会館奥の一間に用意されためっき設備は、前夜からの冷え込みで処理液、めっき液の温度が定められた温度まで上昇されておらず、1時間位開始が遅れた事を鮮明に覚えている。それ以来、現在まで実施が継続されている。これは、偉大なる実績である。従業員の技能向上は、めっき業全体の技術の信頼性を高めることとなり、今後も継続すべきである。

⑤有害物質の地下浸透完全防止

平成元年10月、水濁法が改正され、有害物質の地下浸透禁止が規定され、土壤への有害物質の漏れ出し防止の必要性を私どもは強く認識した。その後、国は平成6年4月に土壤の環境基準の設定、平成9年3月には地下水の汚濁に係わる環境基準の告示、引き続き地下水の浄化基準を定め、平成9年4月より施行した。土壤汚染対策はこのような経過で実施されてきたが、その後企業の工場跡地等の再開発等に伴い、重金属、塩素系有機溶剤等の有害物質による土壤汚染がしばしば発生し、それが増加の傾向になり、有害物質により汚染された土壤を直接摂取したり、その土壤から有害物質が溶け出した地下水を飲料水として利用することによる人の健康被害を未然に防止したりするため、土壤汚染対策法(平成14年5月29日公布)が平成15年2月15日に施行された。平成元年10月1日に有害物質の地下浸透が初めて禁止されたが、この法では国民の健康を保護するため、平成15年2月15日以前の土壤汚染全てが対象になっている。この土壤汚染対策法では使用が廃止されためっき工場等の敷地であった土地が対象であり、知事がその土地の汚染により人の健康被害が生ずる恐れがあると認めた時、汚染状況を法で定めた方法で調査を行い、汚染の状況が基準に適合しない土地であれば、汚染地域に指定し汚染の除去を命令するものである。

六価クロム化合物汚染であれば、「含有量基準 土壤1kgにつき六価クロム250mg以下」「溶出量基準 検液1ℓにつき六価クロム0.05mg以下」(検液とは土壤100gと水1ℓを混合し、振とう、攪拌ろ過等を行う。)と定めている。従って稼働しているめっき工場について知事が汚染調査を原則として行わないことであった。一方稼働しているめっき工場の事業主が、自主調査を行い汚染が確認された場合、自主的に汚染を除去することも可能であった。しかしその後、対策法は平成22年4月1日より新しく改正施行となった。重要な改正点は事業主の自主調査で汚染が確認された場合、土地所有者から知事に汚染を申請し汚染地域として適切に管理する事。もう一点は稼働中のめっき工場の敷地のうち3000㎡以上の土地形質を変更する時は知事に届出が必要となり、知事の判断で汚染調査を命ずることが出来ることとなった。平成15年2月15日法施行以降、私はことある毎に、自分の工場の土地については自主調査をして、適切な対策を考えるよう申し上げてきたが、新法では汚染対策は自主管理ではなく、行政への届出とともに行政指導の上で対策を実行することとなった。従って、今後六価クロム等による新たな汚染を絶対に発生させてはならない。

六価クロムを使用するめっきの適正管理には、次のようなことに十分留意しなければならない。

①六価クロムめっきの排水、排気は容易に試料採取し分析が出来るが、地下浸透はサンプリングが出来ない。従って、日常、地下浸透を簡単に確認することが出来ない。そのため、めっき設備とその付属設備の日常点検により異常を目視で発見し対応しなければならない。

- ②無水クロム酸は強酸化剤である。めっき液が濃縮され飽和状態になり、真夏の40℃近くの気温ともなればティッシュペーパーは煙を上げて酸化される。
- ③耐食性エポキシ樹脂ライニングといえども、上記の状況では腐食される。
- ④樹脂ライニングされたピットの中へめっき槽等を設置する場合は、少量の水を張って監視する。
- ⑤クロムめっき槽に付帯設置された局所排気装置のフードダクトからの垂れこぼれは高濃度となる。床洗浄を確実に行う。
- ⑥局所排気装置のファン等は樹脂ライニングの床面に直置きすることなく、鉄製の受皿に入れて設置する。塩ビのケーシングは熔接部分から六価クロムが漏れやすい。
- ⑦めっき工場の床面には高濃度クロム酸が滞留しないようにする。
- ⑧めっき工場の装置のレイアウトを変更する時、高濃度クロム酸の漏れ、しみ出しを目視で発見しやすいようにする。
- ⑨樹脂ライニングに腐食、破損が発生した時は、速やかに下地コンクリートの補修、乾燥、サンダー処理の後ライニングを行う。

六価クロムは浸透力が大変強力で、地下の粘土層の手前まではひとまず浸透し汚染する。粘土層まで3mの地層であれば表面から3m深さの土壌を無害化しなければならない。無害化の一つの方法として、掘削客土を行い新しい土壌を入れ換える方法があるが、例えば3mの深さまで迄掘削するとすれば掘削重機の乗り入れ、隣の敷地からの土砂崩れ防止土留、掘削土壌の有害産廃処理費用、土地の立地条件、汚染の深さと広さ、周囲の利用関係を考えると、そう簡単に工事が出来るものではなく、費用はそれ相当の出費となり、場合によっては同じ場所での新地価格を上回ることも起こりうる。従って、絶対に土壌汚染をしないよう床対策と工場床管理を実行しなければならない。

最後に、いつの時代にもめっき業界に課せられた課題は有る、組合が中心となって課題問題解決を図らなければならない。

めっき業界の十年後を想う

顧問 菅沼 延之



創立90周年、おめでとうございます。

十年一昔と言いますが、私が組合役員として70周年、80周年の節目の慶事に関わっておりました時、たくさんの先輩・後輩の方との出会いがあり、業界の発展を眺めてまいりました。特に70周年では三役として、各賛助会員様に参上して協賛金のお願いをしたことが昨日のように思い

出されます。まだ我が国の景気が悪くなく、目標金額に直ぐに到達し輝かしい式典を行えましたことは、当時の組合の実力を内外で発揮できたものとして記憶に残っております。

さて90周年にあたり、これからのめっき業界は、今までの様な量産志向だけでは、存立することができなくなってくると考えております。我が国の代表的な産業である自動車分野では、EV化による部品点数の激減や表面処理を必要としない部材の拡大等、従来の思考では全く通用しない世界が展開される、まさに生きるか死ぬかの時代が待ち受けていると思われれます。

今、M&Aの業界では、めっき業が注目され、大手企業からの買収依頼が増えていると聞いております。私たちは逆手を取って、大手企業が全く手を付けていないハイテクの中のローテクに目を向け、特殊な提案開発型企业に少しずつ体質改善を図り、且つ、画像や数値によるデータ等で客先を納得させる品質保証体制を確立した企業が、これからの厳しい時代の荒海を乗り越えて行くことになるでしょう。口先だけの対応では、最初はよくても、2回目以降はすぐに返答に困ってしまい、とても信用を得ることは難しいと思わなくてはなりません。結局のところ企業全体の知的レベルの向上を図り、良いと思ったことは直ちに取り掛かる判断が、トップとして必要ではないでしょうか。

幸いにも組合執行部は、若く、活動的で非常にまとまっておりますので、めっき業界の附託に十分に應えていけると確信し、期待しております。ただ懸念していることは、今は全国鍍金工業組合連合会の傘下のもと、各単組がうまくまとまっておりますが、大変革時代が来襲することを想定しますと、各組合同士がライバルになる可能性も否定できず、今後、より一層連携を密にして土台の底上げを実行されていくことを祈念いたしております。

先輩の方々が、累々として築いてこられた組合がますます発展していくことを切に願い、お祝い申し上げます。

創立90周年記念誌に寄せて



顧問 伊藤 豪

昭和6年5月に名古屋鍍金業組合として創立以来、本年で90年という節目の年を迎えられますこと、心よりお慶び申し上げますとともに長い歴史と伝統を深く感じています。

私もその間、平成9年より現在まで25年以上にわたり愛知県鍍金工業組合と深く関わってまいりました。時代背景といたしましては、平成2年のバブル崩壊後の失われた10年20年を経験し、その低迷からようやく立ち直り始めたところで、平成20年の100年に一度といわれるリーマンショック、更には、トヨタショック、1ドル75円の超円高、そして平成23年3月には、1000年に一度といわれる東日本大震災が起きました。その後、アベノミクスによる三本の矢政策(大胆な金融政策・機動的な財政政策・民間投資を喚起する成長戦略)が実行され、大企業は好業績を上げ、トリクルダウンを期待していた中小零細企業では、好業績は実感できなかったのが現実でした。そして令和2年2月に起こったのが、新型コロナウイルス感染症パンデミックです。日本はもとより世界中の経済活動が停滞し、現在は半導体不足や金属の高騰・海外生産品の減少などにより、生産活動が極端に落ちています。このように激動する社会情勢の中、愛知の鍍金業界の企業数は、平成元年には226社だったものが、令和3年には108社と30数年で半数以下になり、現在も減少傾向が続いており、100社を下回るのも、時間の問題だと言われています。業界の売り上げは増加している状況を見ますと、環境問題・後継者問題・工場立地問題等とともに、受注している大企業の動向により業績が大きく変動してしまうことが、企業を存続していくのに大きな妨げになっていると思われます。

10年前の80周年は、理事長として記念事業を実施し、ゴルフ大会・ボウリング大会・記念講演会・式典・祝宴を挙行了しました事、つい先日のように懐かしく感じられます。

さて10年後の予測ですが、地球温暖化防止のため、カーボンニュートラルを目指して世界各国が動き始めています。ディーゼル車・ガソリン車はすべてFCV車・EV車にとって代わる、HV車もPHV車も使用できないようになるといわれています。愛知県では製造品出荷額47兆9千億と43年連続日本一です。そのうち半分が自動車産業です。自動車業界も100年に一度の大変革期であり、今後の方向を決める重大な時期に差し掛かっていると宣言しています。しかし今後も、愛知県はものづくりを中心に経済活動を進めていくと思われ、鍍金業界はサポートインダストリーとして重要な役割を担っていくことは間違いありません。そのためには、状況の変化にもすぐ対応できる準備をしておくことが大事です。

愛知県鍍金工業組合も10年後には、100周年を迎えることになります。今後も予期せぬ事が次々と起きてくるとは思われますが、ピンチをチャンスに!!業界一致団結して進んでいけば、道は開けると思います。関係各位の皆様のご活躍を願っています。

愛知県技能検定試験合格者状況(めっき)

(愛知県職業能力開発協会資料)

年度	めっき：特級			めっき：1級			めっき：2級			めっき：3級		
	申請数	合格数	合格率	申請数	合格数	合格率	申請数	合格数	合格率	申請数	合格数	合格率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%	人	人	%
24	11	3	20.0	39	16	41.0	140	64	45.7	32	29	90.6
25	12	6	50.0	39	10	25.6	131	63	48.1	22	18	81.8
26	7	4	57.1	43	25	59.1	128	55	43.0	19	15	78.9
27	8	7	87.5	54	21	38.9	134	76	56.7	21	15	71.4
28	6	1	16.7	55	21	38.2	115	53	46.1	14	9	64.3
29	8	3	37.5	51	26	51.0	157	86	54.8	39	36	92.3
30	8	5	62.5	63	29	46.0	127	58	45.7	20	16	80.0
元	8	0	0.0	44	19	43.2	139	76	54.7	29	27	93.1
2	10	2	20.0	-	-	-	-	-	-	12	9	75.0
3	7	2	28.6	47	15	31.9	145	46	31.7	20	15	75.0

令和2年度は新型コロナにより、1級、2級中止。

組合役員の変遷

年度	総会等期日	理事長	副理事長 専務理事	顧問理事 常任理事	理事 員外理事	監事	組合員数
24	24.5.18	伊藤 豪	笠間則文 菅沼延之 神谷 篤 鈴木邦男	竹内克弘 小川孫昭 佐藤寿訓 加藤千博 中島隆夫 松崎心悟 杉浦候二 笹野恭史 松田勝彦 清水謙一 鈴木泰造 落合慎一	竹中敬治 水野光隆 渡辺益良 若子光憲 山内教義 渡邊則康 原 正一 二村義博 笠間亮次 山川泰史 伊藤益夫 長谷川秋夫	田中勝美 杉浦和正 水野親則	133
25	25.5.17	伊藤 豪	笠間則文 菅沼延之 神谷 篤 鈴木邦男	竹内克弘 笹野恭史 清水謙一 中島隆夫 佐藤寿訓 杉浦候二 松田勝彦 加藤千博 松崎心悟 鈴木泰造 落合慎一	竹中敬治 水野光隆 若子光憲 山内教義 金森 健 高橋康之 二村義博 笠間亮次 伊藤志成 長谷川秋夫	田中勝美 杉浦和正 水野親則	128
27	27.5.15	伊藤 豪	神谷 篤 笹野恭史 鈴木泰造 佐藤寿訓	笠間則文 鈴木邦男 清水謙一 若子光憲 中島隆夫 水野光隆 落合慎一 竹中敬治 松田勝彦 山内教義 松崎心悟 杉浦候二	水野善仁 水野民樹 近藤健次 二村義博 笠間亮次 高木香苗 岩永章吾 前川恵一 長谷川秋夫	田中勝美 杉浦和正 水野親則	126

年度	総会等期日	理事長	副理事長 専務理事	顧問理事 常任理事	理事 員外理事		監事	組合員数
29	29.5.12	神谷 篤	鈴木泰造 笹野恭史 佐藤寿訓 清水謙一	伊藤 豪 若子光憲 二村義博 竹中敬治 水野光隆 落合慎一 山内教義 松崎心悟 杉浦候二	水野善仁 笠間敦嗣 豊田章寛 佐竹準也 伊藤 亮 水野民樹 笠間亮次 高木幹晴 竹内弘一	杳名正文 前川恵一 長谷川秋夫	笠間則文 松田勝彦	120
元	元.5.10	神谷 篤	鈴木泰造 笹野恭史 清水謙一 水野光隆	伊藤 豪 二村義博 笠間敦嗣 竹中敬治 若子光憲 水野善仁 山内教義 竹内弘一 前川恵一 高木幹晴 伊藤 亮	宮松寿光 豊田章寛 佐竹準也 水野民樹 浅野功嗣 笠間亮次 前田昌文 角屋俊幸 岩崎 学 長谷川康征		笠間則文 竹内克弘 松田勝彦	112
3	3. 5. 14	神谷 篤	鈴木泰造 清水謙一 水野光隆 笹野恭史 笠間敦嗣	伊藤 豪 水野善仁 竹内弘一 二村義博 竹中敬治 若子光憲 山内教義 前川恵一 水野民樹 高木幹晴 伊藤 亮	宮松寿光 豊田章寛 佐竹準也 岩崎 学 笠間亮次 眞野祥典 小池和正 井上朋彦 長谷川康征		竹内克弘 松田勝彦	108

委員会の変遷

平成24年度

委 員 会 名	担当副理事長	委員長	副委員長	委 員
総 務	笠間則文	佐藤寿訓	笹野恭史	松田勝彦(支部連絡協議会会長) 笠間亮次
情 報	神谷 篤	加藤千博	清水謙一	渡辺益良、若子光憲
経 営	菅沼延之	中島隆夫	山内教義	水野光隆、竹中敬治
環 境	菅沼延之	松崎心悟	伊藤益夫	原 正一、二村義博
技 術	神谷 篤	杉浦候二	鈴木泰造 落合慎一	渡邊則康、山川泰史

平成25・26年度

委 員 会 名	担当副理事長	委員長	副委員長	委 員
総 務	笠間則文	笹野恭史	若子光憲	松田勝彦(支部連絡協議会会長) 水野光隆
情 報	神谷 篤	清水謙一	加藤千博	高橋康之
経 営	菅沼延之	中島隆夫	山内教義	竹中敬治、笠間亮次
環 境	菅沼延之	佐藤寿訓	松崎心悟	二村義博
技 術	神谷 篤	杉浦候二	鈴木泰造 落合慎一	金森 健、伊藤志成

平成27・28年度

委 員 会 名	担当副理事長	委員長	副委員長	委 員
総 務	神谷 篤	清水謙一	竹中敬治	松田勝彦(支部連絡協議会会長) 二村義博
情 報	笹野恭史	若子光憲	笠間亮次	高木香苗、岩永章吾
経 営	鈴木泰造	中島隆夫	山内教義	水野善仁、前川恵一
環 境	笹野恭史	水野光隆	松崎心悟	近藤健次
技 術	鈴木泰造	落合慎一	杉浦候二	水野民樹

平成29・30年度

委 員 会 名	担当副理事長	委員長	副委員長	委 員
総 務	佐藤寿訓	若子光憲	山内教義 (支部連絡協議会会長)	笠間亮次、水野善仁
情 報	笹野恭史	二村義博	笠間敦嗣	竹内弘一
経 営	鈴木泰造	竹中敬治	前川恵一	杳名正文、佐竹準也
環 境	笹野恭史	水野光隆	松崎心悟	高木幹晴、豊田章寛
技 術	鈴木泰造	落合慎一	杉浦候二	水野民樹、伊藤 亮

令和元・2年度

委 員 会 名	担当副理事長	委員長	副委員長	委 員
総 務	清水謙一	二村義博	山内教義 (支部連絡協議会会長)	笠間亮次、岩崎 学
情 報	笹野恭史	笠間敦嗣	竹内弘一	前田昌文
経 営	鈴木泰造	竹中敬治	前川恵一	佐竹準也、浅野功嗣
環 境	笹野恭史	若子光憲	高木幹晴	宮松寿光、豊田章寛
技 術	鈴木泰造	水野善仁	伊藤 亮	水野民樹、角屋俊幸

令和3年度

委 員 会 名	担当副理事長	委員長	副委員長	委 員
総 務	清水謙一	水野善仁	山内教義 (支部連絡協議会会長)	笠間亮次、岩崎 学
情 報	清水謙一	竹内弘一	前川恵一	豊田章寛
経 営	水野光隆	二村義博	水野民樹	眞野祥典
環 境	水野光隆	竹中敬治	高木幹晴	佐竹準也、宮松寿光
技 術	鈴木泰造	若子光憲	伊藤 亮	井上朋彦、小池和正

愛知県鍍金工業組合 組合員

名古屋東支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
(有)イソベ電化工業所	磯部光伸	463-0089	名古屋市守山区西川原町13	052-791-5801
(有)猪高研磨工業所	小塚政信	463-0037	名古屋市守山区天子田4-204	052-774-3255
一 鍍 金 工 業 所	大島和行	463-0076	名古屋市守山区鳥羽見3-4-14	052-791-2903
(有)稲垣鍍金工業所	稲垣賢哉	461-0040	名古屋市東区矢田4-15-45	052-711-3118
(株)清 水 鍍 金	清水謙一	461-0043	名古屋市東区大幸3-4-27	052-722-0571
白 金 鍍 金 工 業 (株)	笹野恭史	463-0808	名古屋市守山区花咲台2-1001	052-739-0739
(株)ダイワエクセル	水野善仁	464-0002	名古屋市千種区香流橋1-1-24	052-771-6191
(株)東洋鍍金工業所	伊藤友彦	463-0089	名古屋市守山区西川原町8	052-794-1451
野 上 化 学 工 業 (株)	野上 敬	463-0037	名古屋市守山区天子田2-1001	052-777-7091
二 葉 産 業 (株)	笠間敦嗣	463-0808	名古屋市守山区花咲台2-501	052-739-0661
矢田川電鍍工業(株)	竹中敬治	463-0037	名古屋市守山区天子田2-1111	052-771-8180

名古屋西支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
アサヒ技研工業(株)	近藤哲矢	490-1212	あま市小橋方寺西79	052-441-2181
(株)協栄ホーニング	渡辺良和	473-0914	豊田市若林東町赤池56-33	0565-51-3077
(株)小 島 産 業	大橋一詞	458-0911	名古屋市緑区有松町桶狭間高根39-99	052-621-1545
(株)コヤマケミカル	山本浩嗣	458-0801	名古屋市緑区鳴海町字杜若120-1	052-891-1881
(株)丹 陽 商 会	安藤重幸	457-0821	名古屋市南区弥次エ町5-12-15	052-602-5373
(資)常 盤 工 業 所	宮松寿光	458-0847	名古屋市緑区浦里5-300	052-621-1659
(株)仲 野 工 業 所	仲野嘉人	454-0806	名古屋市中川区澄池町11-7	052-353-4036
(株)鳴海鍍金工業所	水野光隆	458-0801	名古屋市緑区鳴海町字丹下11	052-891-0121
早川メッキ工業(株)	早川幸喜	457-0816	名古屋市南区元柴田東町3-25	052-612-3597
(有)久田鍍金工業所	久田和俊	454-0853	名古屋市中川区玉船町3-1-11	052-661-3379
丸昭産業(株)本社工場	山内雄二	454-0804	名古屋市中川区月島町7-6	052-351-6488
八 幡 鍍 金 工 業 (株)	中島啓輔	454-0036	名古屋市中川区二女子町5-52	052-351-7241

名古屋南支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
小 川 工 業 (株)	栃谷光慶	455-0831	名古屋市港区十一屋1-48	052-381-7000
(株) ケ イ エ ス 理 化	榊間達二	455-0074	名古屋市港区正保町4-15	052-381-9434
三 和 工 業 (株)	木場長健	455-0831	名古屋市港区十一屋1-59-2	052-381-3465
ゼ ネ ラ ル (株)	中島久樹	455-0056	名古屋市港区砂美町112	052-661-4826
(株) テ イ ク ロ 総 務	市川貴浩	456-0012	名古屋市熱田区沢上2-8-9	052-682-9111
(有) 豊 田 鍍 金	豊田 均	455-0832	名古屋市港区宝神2-218	052-383-8021
名古屋メッキ工業(株)	菅沼延之	456-0033	名古屋市熱田区花表町16-11	052-882-5541
(株) ホ ク ト ウ	金田和久	455-0076	名古屋市港区川間町3-14	052-651-7278
ミ タ カ 電 機 (株)	若子光憲	456-0033	名古屋市熱田区花表町16-16	052-882-5111
八 欧 鍍 金 工 業 (株)	中島久樹	455-0865	名古屋市港区天目町117	052-301-8000
八 熊 鍍 金 工 業 (株)	加藤義憲	456-0071	名古屋市熱田区明野町5-8	052-681-1321

名古屋北支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
愛 中 理 化 工 業 (株)	竹中道明	452-0807	名古屋市西区歌里町35	052-501-6216
伊 藤 工 業 (株)	松田勝彦	451-0012	名古屋市西区稲生町4-27	052-522-3251
(株) オーエスケーアイ	大笹直樹	462-0023	名古屋市北区安井1-3-2	052-911-9651
真 生 電 化 工 業 (株)	石井 博	452-0833	名古屋市西区山木1-236	052-502-3121
(有) 中 丸 鍍 金 工 業 所	佐竹準也	462-0056	名古屋市北区中丸町2-30	052-991-5458
(株) 藤 井 メ ッ キ 工 業	井上昭彦	486-0966	春日井市上ノ町1-14	0568-32-5877
三 ツ 矢 化 学 (有)	安田勝彦	452-0835	名古屋市西区丸野2-214	052-503-0541
(有) 渡 辺 メ ッ キ 工 業	松崎心悟	452-0833	名古屋市西区山木1-2	052-504-1801

名古屋中支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
(有)石黒鍍金工業所	石黒真人	459-8001	名古屋市緑区大高町中道8-1	052-624-9711
イ ソ ガ イ (株)	磯谷 哲	457-0863	名古屋市南区豊4-17-12	052-811-9221
(有)榊原鍍金工業所	榊原喜博	460-0012	名古屋市中区千代田3-32-21	052-321-2611
(有)サンルミナス	伊藤 豪	467-0845	名古屋市瑞穂区河岸1-5-1 太陽電化工業(株)新工場3F	052-821-1262
下山電化工業(株)	下山ひとみ	464-0850	名古屋市千種区今池1-23-30	052-733-1313
鈴木鍍金工業(株)	鈴木泰造	463-0808	名古屋市守山区花咲台2-701	052-768-6090
(株)セプラス	常見みゆき	470-0225	みよし市福田町宮下41-1	0561-34-2285
太陽電化工業(株)	伊藤 亮	467-0845	名古屋市瑞穂区河岸1-5-1	052-821-1161
ツバイクロム(株)	都梅 彰	467-0851	名古屋市瑞穂区塩入町6-22	052-824-1500
(株)豊田電研	豊田邦裕	460-0022	名古屋市中区金山5-4-31	052-881-6171
(株)日比野鍍金工業所	日比野愛	460-0012	名古屋市中区千代田3-3-21	052-321-3380
福田鍍金工業(株)	福田喜一	468-0065	名古屋市天白区中砂町477	052-831-7525
ベリテック三協(株)	森 諭司	460-0022	名古屋市中区金山5-4-27	052-871-1931
(資)森川メッキ	森川将士	460-0012	名古屋市中区千代田4-11-28	052-321-4315
(株)山内メッキ	山内教義	467-0852	名古屋市瑞穂区明前町12-30	052-821-8771
(有)渡辺鍍金工業所	渡辺利夫	467-0015	名古屋市瑞穂区十六町1-51	052-851-2743

尾張東支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
朝日理化工業(株)	水野 修	486-0952	春日井市追進町1-1	0568-31-7121
(株)イケックス工業	池上寿光	486-8567	春日井市御幸町1-3-1	0568-33-4111
(株)エムエフエス	磯貝雄一	485-0821	小牧市本条山之内1242-1	0568-47-0066
大森鍍金(有)	大森貴仁	483-8368	江南市宮田町南野東75	0587-58-8633
ケミカルテック(株)	水野民樹	484-0081	犬山市大字犬山字東馬場先20-1	0568-61-2594
中日クラフト(株)	毛利陽一	486-0953	春日井市御幸町1-3-21	0568-31-4005
(株)トーシン	相原伸太郎	485-0024	小牧市大字南外山字花の木898-1	0568-73-3158
(株)モリシマ	森島秀保	484-0085	犬山市大字犬山字西古券574	0568-61-1317
(有)渡辺鍍金工業所	渡邊則康	483-8022	江南市和田町旭14	0587-54-6321

尾張西支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
近 藤 鍍 金 工 業 (株)	近藤秀作	495-0001	稲沢市祖父江町祖父江字高熊221-2	0587-97-2551
サカエ理研工業(株)	岡野 進	452-8501	清須市西枇杷島町宮前1-48	052-501-8231
三 洋 鍍 金 工 業 (株)	青山幸義	490-1111	あま市甚目寺桑丸68	052-444-0057
眞 和 興 業 (株)	眞野祥典	483-8112	江南市安良町池尻80	0587-50-5505
(株) セ ノ オ	妹尾和彦	497-0034	海部郡蟹江町本町1-41-1	0567-95-3412
(株) N I M U R A	二村義博	496-0943	愛西市森川町堤外112-1	0567-24-1511
(有) 広 正 鍍 金 工 業	原 英樹	490-1207	あま市二ッ寺東高須賀96	052-444-8826
ヘイワ電化工業(株)	浅野功嗣	490-1305	稲沢市平和町丸渕上122	0567-46-1647
三 鷹 金 属 工 業 (株)	生沼好英	490-1226	あま市中橋宮前63	052-444-3211
明 光 工 業 (株)	笠間俊介	491-0823	一宮市丹陽町五日市場本地45	0586-76-5811

東三河支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
(有) 伊 藤 鍍 金 工 業 所	伊藤志成	442-0862	豊川市市田町宮社21	0533-86-7001
(有) 小野メッキ工業所	小野 進	442-0007	豊川市大崎町宮之坪68-1	0533-85-0138
(有) 蒲 郡 鍍 金 工 業 所	小池和正	443-0003	蒲郡市五井町西郷96-1	0533-68-2722
(株) 小 池 テ ク ノ	大橋一友	441-8039	豊橋市西橋良町35	0532-45-4025
(有) 小 林 鍍 金 工 業 所	小林正典	441-0105	豊川市伊奈町南山新田331-1	0533-72-2455
新 協 技 研 (株)	山科佳昭	442-0842	豊川市蔵子1-27-28	0533-89-1516
(株) 高 木 メ ッ キ	高木香苗	442-0016	豊川市美幸町1-28	0533-85-1255
(有) 中 部 鍍 金	中瀬博喜	443-0104	蒲郡市形原町袋川8-1	0533-57-7117
(株) 東 三 メ ッ キ 工 業 所	前田昌文	441-8133	豊橋市大清水町字大清水599	0532-25-2171
(株) 豊 川 鍍 金 工 業 所	小野浩行	442-0839	豊川市四ッ谷町2-2	0533-86-7108
豊 橋 鍍 金 工 業 (株)	高木幹晴	441-8011	豊橋市菰口町3-17	0532-31-6217
(株) 豊 栄 鍍 金	小野 栄	441-3154	豊橋市二川町字西向山165-2	0532-41-0343
(有) 名 東 電 化 工 業	戸川貴弘	441-8101	豊橋市山田町字郷17	0532-45-4218
山 田 鍍 金 工 業 (有)	山田 一	442-0061	豊川市穂ノ原3-22-10	0533-84-1340

西三河支部

事業所名	代表者名	〒	事業所住所	電話番号
愛 知 技 研 (株)	佐々木庸臣	448-0003	刈谷市一ツ木町竹下50-1	0566-23-2731
葵 巧 研 (有)	神谷 篤	444-0913	岡崎市葵町14-8	0564-21-8255
(株) ア ク ト メ タ ル	山下裕剛	473-0926	豊田市駒新町金山61	0565-57-1931
(株)石実メッキ工業所	杉浦正行	447-0048	碧南市福清水町1-13	0566-41-6300
板 倉 鍍 金 工 業 (株)	板倉伸利	444-1323	高浜市田戸町5-6-12	0566-53-1558
(株) 市 川 メ ッ キ	本多ゑみ子	473-0907	豊田市竜神町新生8	0565-28-1336
井上メッキ工業(株)	井上朋彦	447-0887	碧南市汐田町2-26	0566-41-1111
(株)エポックオチアイ	落合慎一	444-1324	高浜市碧海町2-2-14	0566-53-0392
(株) 寿 鍍 金 工 業 所	前川恵一	471-0838	豊田市緑ヶ丘6-40-1	0565-29-1080
(株)サーテックカリヤ	竹内弘一	448-0034	刈谷市神明町6-100	0566-21-3541
栄 鍍 金 工 業 (株)	伊藤益夫	475-0862	半田市住吉町5-121	0569-21-2098
三 研 工 業 (株) 本 社 ・ 安 城 工 場	杓名正文	446-0051	安城市箕輪町唐生197-3	0566-76-8141
(資)塩野谷鍍金工業所	塩野谷欽司	446-0062	安城市明治本町18-7	0566-76-2415
(株)大和電化工業所	杉江栄美	474-0026	大府市桃山町2-158	0562-47-1325
東 海 鍍 金 工 業 (株)	加古誠人	476-0013	東海市中央町5-14	0562-32-0976
(有)成田鍍金工業所	成田聖紘	470-2103	知多郡東浦町石浜なかね4-3	0562-83-3728
ユ ケ ン 工 業 (株)	犬塚太門	446-0053	安城市高棚町土井ノ内123	0566-73-8220

賛 助 会 員

事業所名	〒	事業所住所	電話番号
(株) 愛 研	463-0037	名古屋市守山区天子田2-710	052-771-2717
(株) ア イ コ 一 名古屋営業所	462-0868	名古屋市北区憧旛町3-11 Gallery G 3階	052-982-7841
(株) ア イ ザ ッ ク 環境事業本部	931-8304	富山市米田町3-3-33	076-438-1638
旭 化 工 (株)	453-0061	名古屋市中村区日比津町1-21-7	052-471-8161
アトテックジャパン(株)	226-0006	横浜市緑区白山1-18-2	045-937-6120
(株) 安 藤 製 作 所	475-0056	半田市乙川一色町91-1	0569-21-2245
イ コ ー ル ゼ ロ (株)	381-0022	長野市大字大豆島4020-3	026-221-8080
(株) イ セ ヤ マ	460-0016	名古屋市中区橘2-7-6	052-331-4301
上 村 工 業 (株) 名古屋支店	451-0044	名古屋市西区菊井1-20-11	052-571-5381
(株) S P F	467-0862	名古屋市瑞穂区堀田通5-1	052-871-4121
奥 野 製 薬 工 業 (株) 名古屋支店	466-0058	名古屋市昭和区白金3-17-3	052-871-1601
落 合 ヘ ル ド (株)	485-0012	小牧市小牧原新田字鷹ノ橋608	0568-77-4101
(株) 金 田 理 化 工 業 所	454-0056	名古屋市中川区十一番町4-13	052-652-7561
(株) 河 口 ・ サ ポ ー ト	458-0847	名古屋市緑区浦里2-11	052-558-9235
(株) 環 境 公 害 セ ン タ ー	463-0808	名古屋市守山区花咲台2-201	052-739-1350
(株)環境保全コンサルタント	451-0081	名古屋市西区名塚町1-105	052-524-0621
キ ザ イ (株)	451-0063	名古屋市西区押切1-2-7 第二コーキュービル1階	052-522-1221
木 田 精 工 (株)	579-8025	東大阪市宝町13-26	072-982-4636
(株)金属化工技術研究所 名古屋営業所	462-0015	名古屋市北区中味鏡2-331	052-902-3810
サ ン ア ー ス (株)	452-0839	名古屋市西区見寄町85	052-503-6565
三 栄 工 商 (株)	485-0057	小牧市小木西1-57	0568-41-3701
(株)三 社 電 機 製 作 所 中部営業所	461-0001	名古屋市東区泉1-23-30 名古屋パナソニックビル6F	052-955-5600
(株) 三 進 製 作 所	484-0894	犬山市羽黒貴船浦1-2	0568-67-0466
三 明 化 成 (株) 西日本営業所	501-6264	羽島市小熊町島3-36	058-392-1323
三 和 油 化 工 業 (株)	448-0002	刈谷市一里山町深田15	0566-35-3000
(株) J C U 名古屋支店	462-0856	名古屋市北区芦辺町3-1-2	052-981-7510
柴 垣 化 学 (株)	452-0838	名古屋市西区長先町12	052-502-0001

事業所名	〒	事業所住所	電話番号
新 日 本 電 工 (株)	103-8282	東京都中央区八重洲1-4-16 東京建物八重洲ビル4F	03-6860-6814
新 和 化 成 (株)	460-0002	名古屋市中区丸の内3-23-20 HF桜通ビルディング5F	052-951-4430
(株) ス イ レ イ	455-0803	名古屋市港区入場1-206-2	052-383-8585
住友金属鉱山(株) 名古屋支店	460-0003	名古屋市中区錦1-10-20	052-209-6587
セイコー化工機(株) 名古屋営業所	460-0025	名古屋市中区古渡町18-9 TSUNOKYU名古屋ビル9F	052-323-3130
ゼ ッ ト 工 業 (株)	463-0070	名古屋市守山区新守山3412	052-793-2205
(有) 大 栄 製 作 所	473-0931	豊田市上丘町中池6	0565-51-0337
(株) 大 成 商 会	460-0012	名古屋市中区千代田3-25-17	052-322-1711
(株)ダイセキ環境ソリューション	467-0852	名古屋市瑞穂区明前町8-18	052-819-5312
(株) 竹 島 商 会	490-1204	あま市花長下町田27-4	052-444-1317
中 央 化 学 (株)	578-0921	東大阪市水走5-3-11	072-962-1937
(株) 中 央 製 作 所	467-8563	名古屋市瑞穂区内浜町24-1	052-821-6111
デ イ ッ プ ソ ー ル (株) 名古屋支店	452-0821	名古屋市西区上小田井2-350	052-505-2566
東 海 化 工 機 (株)	448-0813	刈谷市小垣江町大津崎1-43	0566-21-6698
(株)東海分析化学研究所	441-0316	豊川市御津町赤根下川50	0533-65-3571
(有) 東 郊 製 作 所	486-0937	春日井市細木町2-124	0568-33-2205
名古屋鍍金材料商同業会	458-0847	名古屋市緑区浦里2-11 (株)河口・サポート内	052-558-9235
日 光 治 具 工 業 (株)	457-0021	名古屋市南区鶴里町2-47	052-822-0001
日本エンバイロ工業(株) 名古屋支店	482-0014	岩倉市大山寺町神田25	0587-38-0331
日本化学産業(株) 名古屋支店	460-0007	名古屋市中区新栄2-16-13	052-261-0731
日本カニゼン(株) 西日本営業所	510-0051	四日市市千歳町1-52	059-353-5094
日本表面化学(株) 名古屋支店	455-0075	名古屋市港区正徳町6-38	052-389-4031
日本フィルター(株) 名古屋営業所	459-8016	名古屋市緑区南大高2-115 Prosbell南大高	052-622-8562
林 ス テ ン レ ス 工 業 (株)	441-1231	豊川市一宮町上新切440	0533-93-5815
(株) マ キ ノ	479-0021	常滑市大曾町3-1	0569-36-0111
マクダーミッド・パフォーマ ンス・ソリューションズ・ ジャパン(株)	254-0082	平塚市東豊田480-28	0463-73-7737
丸 栄 産 業 (株)	466-0058	名古屋市昭和区白金1-17-15	052-871-2561
(株) マ ル ヤ ス	451-0031	名古屋市西区城西2-20-15	052-521-2391
(株)ミダックホールディングス 名古屋営業所	460-0008	名古屋市中区栄2-13-1 名古屋パークプレイス5F	052-202-1821

事業所名	〒	事業所住所	電話番号
(株) ミ ノ シ ヨ ウ	462-0011	名古屋市北区五反田町223	052-903-1515
ミ ヤ マ (株) 名古屋営業所	465-0095	名古屋市名東区高社1-253 一社プラザ301	052-726-8032
(株) ム ラ タ	651-0071	神戸市中央区筒井2-2-8	078-221-7071
名西エンジニアリング(株)	454-0843	名古屋市中川区大畑町2-75	052-351-3841
メルテックス(株)	460-0002	名古屋市中区丸の内2-2-23 イワキビル4F	052-211-6274
〃 (令和4年5月～)	541-0057	大阪市中央区北久宝寺1-4-15 SC堺筋本町ビル9F	06-6266-1535
(株) Y o u r B e s t	461-0044	名古屋市東区矢田東2-23 矢田ビル203	052-508-9755
ユ ケ ン 工 業 (株)	446-0053	安城市高棚町土井ノ内123	0566-73-8220
(有) ユ ー テ ッ ク	493-0004	一宮市木曽川町玉ノ井新屋敷七ノ切31-1	0586-87-3245
(株) リ ー ド	452-0822	名古屋市西区中小田井5-101	052-504-7751
(株) ワ ー ル ド ケ ミ カ ル	460-0003	名古屋市中区錦1-11-20 大永ビルディング9F	052-253-8426

愛知県鍍金工業組合 年表

平成24年(2012年)1月～令和3年(2021年)12月

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成二十四年(二〇二二年)	1.11 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、153名)。 4.20 顧問・三役会。 4.27 改正水質汚濁防止法説明会(東海・北陸ブロック)(名古屋市工業研究所、160名)。 5.18 平成24年度通常総会(名古屋国際ホテル、130名)。 6.6 菅沼延之氏、黄綬褒章受章。 6.11～20 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所、185名)。 6.12～7.5 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、191名)。 7.1 菅沼延之氏、黄綬褒章受章祝賀会(熱田神宮会館、150名)。 7.14,22,28,8.4 毒物劇物取扱試験受験講習会。 9.30 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、132名)。 10.12 東海・北陸ブロック会議(愛知・名古屋国際ホテル、41名)。 11.16 妹尾和彦氏、厚生労働大臣表彰(技能検定功労者)。 11.19 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局会議室、17名)。 11.22 杉浦候二氏、笹野恭史氏、伊藤益夫氏、水野親則氏、全国鍍金工業組合連合会表彰(組合功労)。 12.30 小川孫昭氏逝去。	1.25 全鍍連、平成24年新春賀詞交歓会。 2.22 改正水質汚濁防止法説明会。 2.29 東京スカイツリー完成。 3.8 改正水質汚濁防止法全国説明会。 5.20 北太平洋で金環日食を観測。 5.29 全鍍連、平成24年度通常総会。 8.12 ロンドン五輪にて、日本史上最多の38メダルを獲得。 9.8 大阪青年鍍金研究会創立30周年祝典。 10.8 山中伸弥氏、ノーベル医学生理学賞受賞。 11.17 石川県創立50周年記念式典。 12.8 任天堂より『Wii U』発売。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成二十五年(二〇一三年)	1.9 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、156名)。 4.19 顧問・三役会。 5.17 平成25年度通常総会、伊藤豪理事長再選(名古屋国際ホテル、128名)。 6.10～19 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所、165名)。 6.20～7.3 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、164名)。 7.16,25,30,8.6 毒物劇物取扱試験受験講習会。 8.28 平成25年度めっき初心者技術研修①(名古屋市工業研究所、41名)。 9.2 第1回メンタルヘルス講習会。 9.4 平成25年度めっき初心者技術研修②。 9.29 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、145名)。 10.1 第1回安全衛生セミナー(ウインクあいち、37名)。 10.16 鈴木邦男氏、落合慎一氏、清水謙一氏、愛知県知事表彰(組合役員功労)。 10.18 東海・北陸ブロック会議(福井・ホテルフジタ福井、45名)。 10.23 鈴木邦男氏、落合慎一氏、清水謙一氏、名古屋市長表彰(組合役員功労)。 11.5 第2回メンタルヘルス講習会。 11.16 第2回安全衛生セミナー。 11.19 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局大会議室、15名)。 11.22 神谷篤氏、落合慎一氏、清水謙一氏、愛知県知事感謝状(職業能力開発関係功労)。 神谷篤氏、全国中小企業団体中央会会長表彰(創立65周年特別表彰)。	1.19 名鍍会、定時総会。水野光隆会長新任(東京第一ホテル錦)。 1.25 全鍍連、平成25年新春賀詞交歓会。 2.2～6 全鍍連、インドネシア・ジャカルタ視察研修。 3.23 日本鍍金協会第52回年次大会。 5.28 全鍍連、平成25年度通常総会。 9.7 2020年夏季五輪・パラリンピック、東京開催決定。 9.16 台風18号上陸。西日本から東北にかけて広範囲で被害。 10.16 台風26号上陸。東京・伊豆大島(大島町)で大規模な土石流災害発生。 11.14～18 全鍍連、タイ視察研修。 11.22 全鍍連、第51回全国大会、65周年記念式典。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成二十六年(二〇一四年)	1.10 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、149名)。 2.17 メンタルヘルス対策シンポジウム(ホテルルブラ王山、350名)。 3.19 平成25年度めっき初心者技術研修③。 4.18 顧問・三役会。 5.14 平成26年度めっき初心者技術研修①(名古屋市工業研究所、35名)。 5.15 平成26年度通常総会(名古屋国際ホテル、138名)。 5.21 平成26年度めっき初心者技術研修②。 6.2～10 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.11～25 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、165名)。 7.5 町工場技能者コンクール(電気めっき)(名古屋市工業研究所、25名)。 7.16,25,30,8.6 毒物劇物取扱試験受験講習会。 8.19 鍍金技術講演会～沖猛雄先生を偲ぶ～(名古屋市工業研究所)。 9.2 町工場技能者コンクール(電気めっき)表彰式 9.25 環境整備優良事業所推薦審査会。 10.19 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、154名)。 10.24 東海・北陸ブロック会議(岐阜・岐阜グランドホテル、42名)。 11.11 竹内克弘氏、旭日双光章受章。 11.11 中国・広東省鍍金協会の表敬訪問。 11.11 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局大会議室、17名)。 11.14 若子光憲氏、山内教義氏、全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)。 11.26 平成26年度めっき初心者技術研修③。	1.16 神奈川県メッキ工業組合創立50周年記念式典。 1.30 全鍍連、平成26年新春賀詞交歓会。 3.9 宇宙飛行士の若田光一氏が、日本人初の国際宇宙ステーション船長に就任。 4.1 消費税が8%に増税。 5.28 全鍍連、平成26年度通常総会。 8.20 広島市北部で豪雨に伴う土石流が複数個所で発生。避難指示・勧告は一時15万人以上に。全面解除までには3ヵ月。 9.27 御嶽山噴火。死者57人、行方不明者6人。戦後最悪の火山災害に。 11.14 日本鍍金協会、第51回秋季大会。 12.10 青色発光ダイオード(LED)の開発で、赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏が、ノーベル物理学賞を受賞。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成二十七年(二〇一五年)	1.9 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、166名)。 2.15 竹内克弘氏、旭日双光章受章を祝う会(名古屋マリオットアソシアホテル、280名)。 2.25 下請ガイドライン説明会(東海・北陸ブロック)(名古屋市工業研究所、28名)。 3.10 ほう素、ふっ素、亜鉛等の排水処理講習会。 4.17 顧問・三役会。 5.13 平成27年度めっき初心者技術研修①(名古屋市工業研究所、58名)。 5.15 平成27年度通常総会、伊藤豪理事長再選(名古屋マリオットアソシアホテル、142名)。 5.15 佐藤寿訓氏、黄綬褒章受章。 5.20 平成27年度めっき初心者技術研修② 6.4 町工場コンクール実行委員会。 6.7～16 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.16～29 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、165名)。 7.4 町工場技能者コンクール(電気めっき) 7.9,16,23,30 毒物劇物取扱試験受験講習会。 7.26 佐藤寿訓氏、黄綬褒章受章を祝う会(名古屋マリオットアソシアホテル、130名)。 9.1 マイナンバー制度説明会。 9.18 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、128名)。 10.30 東海・北陸ブロック会議(富山・砺波ロイヤルホテル、44名)。 11.10 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局大会議室、14名)。 11.20 平成27年度めっき初心者技術研修③。 11.20 笹野恭史氏、杉浦候二氏、水野親則氏、愛知県中小企業団体中央会会長表彰(組合功劳)。 11.25 町工場技能者コンクール(電気めっき)表彰式。 12.19 労働災害防止研修。	1.17 名鍍会、定時総会。二村義博会長新任(東京第一ホテル錦)。 1.23 全鍍連、平成27年新春賀詞交換会。 2.1 愛知県知事選挙にて大村秀章氏再選。 2.1～5 タイ視察研修。 3.27 国宝姫路城天守閣の一般公開再開。 3.28 日本鍍金協会、第52回年次大会。 4.21 電気鍍金研究会創立60周年記念式典。 5.12 九州めっき工業組合創立50周年祝賀会。 5.23 鳥取県にスターバックス第1号店がオープン。 5.28 全鍍連、平成27年度通常総会。 5.30 小笠原諸島西方沖地震、M8.1。 8.14 安倍晋三首相が、第二次世界大戦終結70年を迎えるにあたり『阿部内閣総理大臣談話』を発表。 10.5 大村智氏がノーベル医学生理学賞を受賞。 10.6 梶田隆章氏がノーベル物理学賞を受賞。 10.23 日本鍍金協会、第52回秋季大会。 11.20 全鍍連、第53回全国大会。 11.29 全鍍連、シンガポール・マレーシア視察研修。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成二十八年(二〇一六年)	1.8 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、158名)。 4.15 顧問・三役会。 5.12 平成28年度めっき初心者技術研修①。 5.12 笠間則文氏、旭日双光章受章。 5.13 平成28年度通常総会(名古屋マリオットアソシアホテル、132名)。 5.19 平成28年度めっき初心者技術研修②。 6.12～16 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.22～7.6 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、152名)。 7.16 笠間則文氏、旭日双光章受章を祝う会(名古屋マリオットアソシアホテル、200名)。 7.14,20,28,8.4 毒物劇物取扱試験受験講習会。 8.6 親睦ゴルフ大会。 9.25 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、129名)。 10.14 東海・北陸ブロック会議(三重・プラトンホテル四日市、38名)。 11.1 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局大会議室、14名)。 11.18 竹内克弘氏、県条例表彰受賞(産業功労)。 11.24 平成28年度めっき初心者技術研修③。 11.25 宮田敏美氏、愛知県知事表彰(永年勤続優良職員)。 11.25 水野光隆氏、竹中敬治氏、二村義博氏、笠間亮次氏、長谷川秋夫氏、全国鍍金工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)。	1.29 全鍍連、平成28年新春賀詞交歓会。 3.26 日本鍍金協会年次大会。 4.14～16 熊本地震、14日にM6.5の前震、16日にM7.3の本震が発生。死者150人以上(地震による直接死・関連死含む)、住宅被害約17万8,000棟、うち約8,300棟全壊。 5.27 全鍍連、平成28年度通常総会。 5.27 オバマ米大統領、被爆地・広島訪問。平和公園の原爆死没者慰霊碑に献花。 8.5～21 リオ五輪(南米)にて、過去最多41メダルを獲得。 10.28 日本鍍金協会、第53回秋季大会。 11.8 米大統領選でトランプ氏勝利。 11.25 第54回、全国大会。 11.27 全鍍連、フィリピン視察研修。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成二十九年(二〇一七年)	1.13 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、159名)。 1.25 総務委員会 名古屋市工業研究所との打ち合わせ。 4.21 顧問・三役会。 5.10 平成29年度めっき初心者技術研修①(名古屋市工業研究所、46名)。 5.11 伊藤豪氏、旭日双光章受章。 5.12 平成29年度通常総会、神谷篤理事長新任(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、140名)。 5.16 鈴木泰造氏、黄綬褒章受章。 5.17 平成29年度めっき初心者技術研修②。 6.5～14 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.15～29 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、203名)。 7.8 親睦ゴルフ大会。 7.13,20,27,8.3 毒物劇物取扱試験受験講習会。 7.22 鈴木泰造氏、黄綬褒章受章を祝う会(名古屋マリオットアソシアホテル、140名)。 9.16 伊藤豪氏、旭日双光章受章を祝う会(ウェスティンナゴヤキャッスル、280名)。 9.29 東海・北陸ブロック会議(石川・ANAホリディ・イン金沢スカイ、48名)。 10.1 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、128名)。 10.16 笹野恭史氏、杉浦候二氏、愛知県知事表彰(組合功労)。 10.16 若子光憲氏、山内教義氏、愛知県中小企業団体中央会会長表彰(組合役員功労)。 10.25 笹野恭史氏、杉浦候二氏、名古屋市長表彰(組合功労)。 10.26 神谷篤氏、全国中小企業団体中央会会長表彰(組合役員功労)。 11.7 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局小会議室、16名)。 11.17 笠間則文氏、県条例表彰受賞(産業功労)。 11.29 平成27年度めっき初心者技術研修③。	1.21 名鍍会、定時総会。伊藤亮会長新任(東京第一ホテル錦)。 1.27 全鍍連、平成29年新春賀詞交歓会。 5.29 全鍍連、平成29年度通常総会。 6.26 藤井聡太四段(15)、歴代最多記録連勝記録・29連勝を達成。 7.5～6 九州北部豪雨発生。死者38人、行方不明者3人。 7.7 名古屋市工業研究所80周年記念講演。 8.7～8 台風5号発生。近畿・北陸を縦断。死者2名。 9.7 埼玉県鍍金工業組合創立50周年記念式典。 9.17～18 台風18号が九州南部・四国・近畿・北陸を縦断。死者5人。 9.29 全鍍連、東海北陸ブロック会議。 10.21 大阪府鍍金工業組合創立100周年記念式典。 10.23 台風21号発生。東海・関東を縦断。 10.27 日本鍍金協会、第54回秋季大会 11.20 愛知中小企業サミット2017 11.26 全鍍連、台湾視察研修

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成三十年(二〇一八年)	1.11 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、166名)。 1.23 生産性向上支援訓練『生産現場の問題解決』①(20名)。 2.6 中部経済産業局説明会。 2.20 生産性向上支援訓練『生産現場の問題解決』②。 4.20 顧問・三役会。 5.9 平成30年度めっき初心者技術研修①(名古屋市工業研究所、47名)。 5.11 平成30年度通常総会(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、140名)。 5.16 平成30年度めっき初心者技術研修②。 6.4～12 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.12～26 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、165名)。 7.12,19,26,8.2 毒物劇物取扱試験受験講習会。 7.28 組合親睦ゴルフ大会。 10.14 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、92名)。 10.19 東海・北陸ブロック会議(愛知・名古屋国際ホテル、41名)。 10.20 生産性向上支援訓練『品質管理実践』①。 10.27 生産性向上支援訓練『品質管理実践』②。 11.2 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局小会議室、15名)。 11.9 伊藤豪氏、愛知県中小企業共済協同組合表彰(役員功労)。 11.9 愛知県鍍金工業組合、愛知県中小企業共済協同組合表彰(組合功績賞)。 11.9 鈴木泰造氏、落合慎一氏、愛知県能力開発促進大会感謝状(技能検定員永年勤続)。 11.10 生産性向上支援訓練『事故をなくす安全衛生活動』①(名古屋市工業研究所、15名)。 11.14 神谷篤氏、藍綬褒章受章。 11.21 沓名正文氏、前川恵一氏、全国鍍金連合会会長表彰(組合役員功労)。 11.24 生産性向上支援訓練『事故をなくす安全衛生活動』②。 11.28 平成30年度めっき初心者技術研修③。	1.24 名古屋商工協同組合協会創立70周年記念講演会、式典。 1.26 全鍍連、平成30年新春賀詞交歓会。 2.17 藤井聡太五段、中学生初の六段に昇格。 3.31 日本鍍金協会年次大会。 4.9 島根県西部地震発生。M6.1。 4.30～5.3 名鍍会60周年記念中国視察旅行。 5.29 全鍍連、平成30年度通常総会。 6.3 日本硬質クロム工業会、創立60周年記念式典。 6.18 大阪府北部地震発生。M6.1。 6.28 7月豪雨の発生。死者200人以上。 7.2 羽生結弦選手が史上最年少となる23歳で国民栄誉賞を受賞。 9.6 北海道胆振地方中東部地震発生。M6.7。死者・行方不明者40人以上、負傷者600人以上、道内全域約295万戸が停電。 9.12～18 全鍍連、アメリカ視察研修。 9.13 ジャニーズの『タッキー&翼』解散。 9.16 歌手・安室奈美恵が芸能界引退。 10.1 本庶佑氏がノーベル医学生理学賞受賞。 10.6 名鍍会創立60周年記念式典(名古屋国際ホテル)。 10.19 全鍍連、東海北陸ブロック会議。 10.27 日本鍍金協会、第55回秋季大会。 11.9 愛知県中小企業共済協同組合創立50周年記念式典。 11.19 あいち中小企業サミット2018。 11.21 全鍍連、第56回全国大会、70周年記念式典。 12.10 全鍍連、創立70周年会長・副会長特別座談会。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
平成三十一年・令和元年(二〇一九年)	1.11 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、160名)。 2.17 神谷篤氏、藍綬褒章受章を祝う会(名古屋マリオットアソシアホテル、190名)。 4.19 顧問・三役会。 5.10 2019年度通常総会、神谷篤理事長再選(ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、140名)。 5.22 2019年度めっき初心者技術研修①(名古屋市工業研究所、43名)。 5.29 2019年度めっき初心者技術研修②。 6.3～10 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.11～21 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、167名)。 7.13,20,27,8.3 毒物劇物取扱試験受験講習会。 8.31 親善ゴルフ大会。 9.29 従業員親善ボウリング大会(スポーツ名古屋、121名)。 10.11 東海・北陸ブロック会議(福井・サバエシティーホテル、38名)。 10.19 生産性向上支援訓練『品質管理基本』①。 10.24 山内教義氏、若子光憲氏、名古屋市長表彰(組合功劳)。 10.28 山内教義氏、若子光憲氏、愛知県知事表彰(組合功劳)。 10.28 水野光隆氏、二村義博氏、竹中敬治氏、笠間亮次氏、愛知県中小企業団体中央会会長表彰(組合功劳)。 11.1 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局大会議室、16名)。 11.16 生産性向上支援訓練『品質管理基本』②。 11.20 伊藤豪氏、愛知県条例表彰(産業功劳)。 11.26 神谷篤氏、中小企業庁長官表彰(組合関係功劳)。 11.26 宮田敏美氏、全国中小企業団体中央会会長表彰(組合専従優良職員)。 11.27 2019年度めっき初心者技術研修③。	1.19 名鍍会、定時総会。岩崎学会長新任(東京第一ホテル錦)。 1.25 全鍍連、平成31年新春賀詞交歓会。 3.21 イチロー選手、現役引退。 3.30 日本鍍金協会第58回年次大会。 4.1 新元号『令和』発表。 4.19 東池袋自動車暴走死傷事故発生。死者2人、重軽傷8人。 4.26 名鍍会&青経会合同勉強会。 4.30 平成の天皇陛下が退位。 5.1 皇太子徳仁親王殿下が天皇に即位。 5.29 全鍍連、令和元年度通常総会。 7.18 京都アニメーション放火事件。死者36人、負傷者33人、平成以降の死傷者最多の放火殺人事件。 8.15 台風10号の接近に伴うフェーン現象発生。新潟県胎内市にて40.7℃の猛暑を観測。 9.20 ラグビーW杯日本大会開幕。 10.1 消費税が10%に増税。外食等を対象に軽減税率制度を導入。 10.4 日本鍍金協会、第56回秋季大会。 10.9 吉野彰氏ノーベル化学賞受賞。 10.11 全鍍連、東海北陸ブロック会議。 10.31 首里城から出火。正殿等8棟焼損。 11.21 全鍍連、第57回全国大会。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
令和二年(二〇二〇年)	1.10 新年賀詞交歓会(名古屋マリオットアソシアホテル、163名)。 1.27 水質事故防止未然防止対策説明会。 3.18 臨時総会(名古屋市工業研究所、102名)。 4.21 鍍金工業組合移転。 5.15 令和2年度通常総会(名古屋市工業研究所、組合員のみ98名)。 7.22 臨時総会(名古屋市工業研究所、90名)。 10.1 環境整備優良事業所推薦審査会。 11.2 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局電子棟会議室、12名)。 11.25 水野善仁氏、水野民樹氏、全国鍍金連合会会長表彰(組合役員功労)。 12.17 技能検定試験用設備新設。	1.16 日本において初の新型コロナウイルス感染者確認。 1.19 最後の大学入試センター試験。 1.28 全鍍連、令和2年新春賀詞交歓会。 3.24 東京オリンピック・パラリンピックの延期決定。 3.28 日本鍍金協会第59回年次大会。 3.29 タレント・志村けん氏、新型コロナウイルス感染症に伴う肺炎により死去。 4.7 新型コロナウイルス感染症拡大により、初の緊急事態宣言発令(5月31日まで)。 7.1 改正容器包装リサイクル法施行に伴いレジ袋有料化。 7.22 『Go To トラベルキャンペーン』開始。 9.16 菅義偉内閣発足。 10.1 名古屋市工業研究所、鍍金技術講演会。 11.25 全鍍連、第58回全国大会。 12.31 ジャニーズ事務所所属『嵐』が無期限の活動休止。

	愛知県鍍金工業組合関係	めっき業界・一般社会
令和三年(二〇二一年)	1.30 令和2年度後期技能検定(電気めっき3級実技試験)。 2.16 随時級技能検定試験。 3.25 令和3年度技術力強化推進会議。 4.14,15,28 随時級技能検定試験。 5.14 令和3年度通常総会、神谷篤理事長再選(名古屋市工業研究所、組合員のみ97名)。 5.18,19,20 随時級技能検定試験。 6.2~11 電気めっき技能検定実技講習会(名古屋市工業研究所)。 6.10 神谷篤理事長、愛知県中小企業共済協同組合理事長就任。 6.14~7.2 電気めっき技能検定実技試験(名古屋市工業研究所、168名)。 7.7,8,28,29 随時級技能検定試験。 9.14,15,16 随時級技能検定試験。 10.13,14 随時級技能検定試験。 10.25 水野光隆氏、二村義博氏、竹中敬治氏、笠間亮次氏、名古屋市市長表彰(組合功劳)。 10.26 前川恵一氏、愛知県中小企業団体中央会会長表彰(組合功劳)。 11.1 名古屋市上下水道局との意見交換会(名古屋市上下水道局会議室、14名)。 11.18,19 随時級技能検定試験。 11.24 伊藤亮氏、愛知県知事表彰(優秀技能者 あいちの名工)。 12.14,15 随時級技能検定試験。	1.8 新型コロナウイルス感染症拡大により、第2回緊急事態宣言発令(3月21日)。 1.30 大学入学共通テストの開始。 2.13 福島沖地震発生。M7.3、最大深度6強。 2.17 日本国内でコロナワクチンの接種開始。 4.5 ジャパンネット銀行が『PayPay銀行』へ改名。 4.24 名鍍会、第80回ゴルフ大会。 4.25 新型コロナウイルス感染症拡大により、第3回緊急事態宣言発令(9月30日)。 5.27 全鍍連、令和3年度通常総会。 7.2 愛知県中小企業団体中央会創立65周年記念式典。 7.23 東京オリンピック、無観客開催。 8.24 東京パラリンピック開会。 10.4 岸田文雄内閣発足。 10.5 真鍋淑郎氏ノーベル物理学賞受賞。 10.20 熊本県阿蘇山(中岳)噴火。 10.30 日本鍍金協会、第57回秋季大会(役員のためのリモート開催)。 11.1 ジャニーズの『V6』解散。 11.24 全鍍連、第59回全国大会。 12.12 コロナウイルスのオミクロン株を確認、感染が急増。